

リアホナ

わたしたちを
自由にするために
お生まれになった、
16, 44ページ

宗教を越えた
奉仕の祝福, 26ページ

ある若い女性の
依存症克服までの
道のり, 56ページ

こどものかつどう——
イエスさまの本ほんをつつくろう, 68ページ





「^{ひゅ}比喩的な
言い方をすれば、
彼は天を手に取り、
それを地上に
持って来ました。
また、彼は
地を手を取って、
その重要性和栄光を
明らかにし、
神にかかわる
様々な事柄を
平易に分かりやすく
教えました。
そこに彼の使命の
すばらしさが
ありました。」

ブリガム・ヤング大管長
(1801 - 1877年)、
Discourses of Brigham Young、
ジョン・A・ウイツォー選
(1954年)、458 - 459



メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——
永遠に続く家族や友人とのきずな
ヘンリー・B・アイリング管長
- 7 家庭訪問メッセージ——
イエス・キリストの聖なる召し
—— 神の独り子

特集

- 16 急ぎ行きて拝まずや
ブルース・D・ポーター長老
古代の預言は成就しました。囚われ
た者は自由になり、人類家族に希望
がもたらされたのです。
- 22 索引作成はきわめて重要です
ジェニファー・グレース・ジョーンズ
こんなに簡単なことが、世界中の家
族に大きな影響を与えるなんて……。
- 26 他宗教の人々との交わりを通じて、
より良い聖徒となる
ベッツィ・バンデンバーグ
信仰の異なる人たちと奉仕すること
によって、主への献身の度合いをどう
深めることができるでしょうか。
- 32 ムズングから友へ
デビッド・ディクソン
教会とかかわり合う気のなかったゴ
ドフリーの心は、枯れ枝がどンドン
切り落とされていくのを見て、変わ
りました。

- 34 アフリカ——輝く希望の大陸
リチャード・M・ロムニー
アフリカは、「回復」の奇跡が展開す
るのを見ることができる場所です。

シリーズ

- 8 わたしたちが信じていること——
主は栄光のうちに
地上に戻って来られる
- 10 わたしたちの家庭、
わたしたちの家族——
子供たちが聖霊に気づくように
助ける
メリリー・ブラウン・ボヤック
- 13 『若人の強さのために』の教え——
悔い改め
- 14 教会のニュース
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで—— 帰宅の途中で
ヘザー・ウィットル・リグリー

表紙

表紙——The Light of the World,
ジェイ・ブライアント・ワード画
裏表紙——Shepherds Told of Jesus's Birth,
アーサー・A・ディクソン画
内表紙——イリノイ州ノーブー神殿の写真/
Scott Jarvie Photography



44

44 クリスマスの約束

ロバート・D・ヘイルズ長老

今年のクリスマス、あなたは救い主にどんな約束をしますか。



こんげつごう なか
今月号の中に
かく
隠れている
リアホナを
さが
探しましょう。
ヒント——
ちか
とこやさんの近くを
み
見てごらん。

60



48 再臨に備える

ジェフリー・R・ホランド長老

最後の大いなる神権時代にいるわたしたちには、神の小羊の教会を整えるという責任があります。

52 質疑応答

誘惑をどのようにして退ければいいでしょうか。

54 若人の強さのために—— 終着点からの眺め

ブラッドリー・D・フォスター長老

悔い改めは可能です。悔い改めれば、すべてがもっとよくなります。

56 依存からの立ち直り—— ポルノグラフィーを 克服するまでの道のり

匿名

若い女性だったわたしは、自分がポルノグラフィーの問題を抱えることになるなどとは思ってもみませんでした。

58 単なるわき役ではなく

自分をホームティーチングの単なる助手だと思っていないか。考えを改めてください。

60 聖なる場所に立つ

全世界から写真が寄せられました。青少年が聖なる場所に立っている様子をご覧ください。

64 お気に入りのクリスマスソング

C・G・リンドストロム

一人の姉妹が歌うために前に歩いて行くのを見たとき、うまく歌えるのかしらと、わたしは不当にも疑ってしまいました。



67

66 お兄ちゃんは宣教師

ケビン・V

自分だけの部屋が手に入ったけど、ほんとうにお兄ちゃんがいなくてさみしくないだろうか。

67 特別な証人——

家族と一緒に時間を過ごすことは、なぜそれほど大切なのでしょう？
ボイド・K・パッカー会長

68 初等協会を かていでも——

わたしは イエス・キリストが
ふたたび 来られると
知っています

71 わたしたちの ページ

72 イエス様を 待つ

マシュー・D・フリットン

赤ちゃんイエスの おにんぎょうはどこ？ イエス様なしでは、クリスマスをお祝いできないよ。

74 歴史をたどる旅——

まさにこの地だ！

アニー・ビア

76 ちいさな おともだちへ

81 よげんしゃの ポートレート—— ジョセフ・フィールディング・スミス

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6 / 末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 830円(送料共)
普通号/大会号 80円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は、英語版ホームページ iahona.lds.org からお送りください。電子メールの場合は iahona@ldschurch.org へお送りください。また、下記の連絡先でも受け付けています。
Liahona, Rm. 2420, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150-0024, USA

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラム語, フルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, 中国語(簡体字), クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, キリジャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, スペイン語, スワヒリ語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語 (発行頻度は言語により異なります。)

©2013 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. 印刷: 日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:
December 2013 Vol. 37 No. 12. LIAHONA (USPS 311-480)
English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (American Express, Discover, MasterCard, Visa) may be taken by phone or at store.lds.org. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)
POSTMASTER: Send all UAA to CFS (see DMM 707.4.12.5).
NONPOSTAL AND MILITARY FACILITIES: Send address changes to Distribution Services, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368, USA.

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に二つの例を挙げます。



フットラスト/デビッド・T・ワーナー

「子供たちが聖霊に気づくように助ける」10 ページ——この記事を読んだ後、聖霊の声を聞くとはどういうことなのかを子供たちが学べるように、耳や目や体を使った活動を考えてみてください。クリスマスに関係のある話を読んで劇をしてもよいでしょう。主の誕生に関する賛美歌や子供の歌を練習して、友達や近所の人たちに歌って聞かせることもできます。主の絵を一緒に見たり、家の中の目立つ所にキリスト降誕の飾り物を置いてもよいでしょう。家族で奉仕する計画を立てることもできます。何をするにしても、子供たちが御霊を感じているときには、それを認めることができるよう助けてあげてください。

「他宗教の人々との交わりを通じて、より良い聖徒となる」26 ページ——今年はクリスマスの時期に他の宗教の人々と交流する方法を考えてみてはいかがでしょうか。キリスト教の他宗派の家族と一緒にクリスマスにまつわる話を読んだり劇をしたりしてもよいかもしれません。キリスト教徒ではない家族を家庭の夕べに招待して、信じていることや習慣を伝え合うこともできます。その後、どのような真理を学んだのかを、子供たちと話し合うとよいでしょう。

あなたの言語で

languages.lds.org で、「リアホナ」や、教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

アフリカ, 32, 34

イエス・キリスト, 7, 8, 16, 48, 68

教え, 10

思いやり, 80

開拓者, 34, 74

家族, 10, 66, 67

家族歴史, 22

悔い改め, 13, 16, 54, 56

クリスマス, 4, 16, 40, 41, 43, 44, 64, 72, 76

告白, 54

子供, 10

選択の自由, 52

再臨, 8, 48, 68, 72

自由, 16

障がい, 64

初等協会, 71

神権時代, 48

神殿活動, 22

スミス, ジョセフ・フィールドン

グ, 81

聖約, 44

聖霊, 10

伝道活動, 4, 32, 34

道徳, 56

ビショップ, 54

批判, 80

メディア, 56

赦し, 54

奉仕, 26, 32, 58

ホームティーチング, 58

ボルノグラフィ, 56

誘惑, 52, 56

預言, 44

預言者, 34, 48



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・
アイリング管長

永遠に続く 家族や友人とのきずな

皆さんがどこに住んでいても、より豊かな幸福を探し求めている友人がいることでしょう。それは、イエス・キリストの回復された福音に従う生活に、皆さんが見いだしている幸福です。友人はその幸福を言葉で言い表すことはできないかもしれませんが、皆さんの生活にそのような幸福を目にするとき、それが分かります。友人は、その幸福の源がどこにあるか知りたくてたまらなくなるでしょう。特に、自分とまったく同じように皆さんも試練に遭うことが分かったら、なおさらそう思うことでしょう。

皆さんは神の戒めを守るときに幸福を感じてきました。それが福音に従う生活に約束された実です（モーサヤ2：41 参照）。皆さんは、ほかの人に見られるために主の戒めに忠実に従っているわけではありませんが、皆さんの幸福な姿を目にする人々は、福音の回復の良い知らせを聞くように主から備えられているのです。

皆さんは祝福を受けることにより、義務とすばらしい機会に恵まれています。イエス・キリストと聖約を交わした弟子として、より豊かな幸福を見いだす機会をほかの人、特に皆さんの友人や家族にも差し伸べる義務があります。

主は皆さんの機会を御存じであり、皆さんの義務を次のような戒めとして述べられました。「警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。」（教義と聖約 88：81）

主はその戒めを従いやすいものにしてくださっています。イエス・キリストの福音を受け入れ、実践するにつれて、皆さんの心の中に変化が起きるからです。その結果、ほかの人に対する愛が深まり、自分が経験したのと同じ幸福を味わってもらいたいという願いも深まるのです。

そのような変化の一例は、主の伝道の業を助ける機会を喜んで受け入れることです。専任宣教師は、教えるべき人を紹介してくれるよう頼んだ場合、頼んだ相手が真の改宗者であれば温かい返事を期待できることがすぐに分かります。そのような改宗者は自分の友人や家族と幸福を分かち合いたいと切に願っているのです。

皆さんがワードの伝道主任や宣教師から、教えるべき人の名前を求められたら、それは皆さんへの敬意の表れです。皆さんの幸福を目にした友人には、福音を聞き、受け入れる道を選ぶ備えができていないことを伝道主任や宣教師は知っているからです。また、王国へ入るときに必要な友達に皆さんがなってくれると信頼しているのです。

宣教師に会うように勧めることで友人を失うのではないかと恐れる必要はありません。わたしの友人の中には、宣教師を受け入れなかったものの、何年もの間、わたしに感謝してくれた人がいます。わたしが自分にとって非常に大切なものを分かち合おうとしたことが分かったからです。福音を



メリークリスマス!
親しい友人の皆さんへ!

分かち合うことにより、永遠に続く友情を築くことができます。幸福の源は福音だったことが分かるのです。幸福の計画に従う道を選ぶよう、友人、そして特に家族に勧める機会を決して見逃さないでください。

そのような勧めにこたえる最も大きな機会は、教会の神殿の中にあります。神殿では、わたしたちの先祖が、この世で受けられなかった救いの儀式を主から受けることができます。先祖は愛と希望をもって天から皆さんを見ています。先祖も主の王国へ入る機会にあずかると主は約束しておられ（教義と聖約 137：7-8 参照）、主は皆さんの心の中に先祖への愛の種を植えておられるのです。

会ってほしい人々の名前を宣教師に渡すときに喜びを感じるのとちょうど同じように、ほかの人のために神殿の儀式を受けるときに、皆さんの多くは

喜びを感じてきたでしょう。自分の先祖の身代わりに儀式を行うときには、さらに大きな喜びを感じたことでしょう。預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示によれば、神殿の身代わりの儀式を通して先祖のために永遠の幸福への道を開くときに初めて、わたしたちは永遠の幸福を得ることができるのです（教義と聖約 128：18 参照）。

クリスマスの時季を迎えると、わたしたちは救い主に、また主の福音がもたらす喜びに心を向けます。その喜びをほかの人に伝えるときに、主に対する感謝を最もよく表すことができます。求道者の名前を宣教師に渡すときに、また先祖の名前を神殿へ提出するときに、感謝は喜びに変わります。そのようにして感謝を示すことにより、友人や家族とのきずなが永遠に続くようになるのです。■

このメッセージから教える

アイリング管長はこう説明しています。わたしたちは福音をほかの人と分かち合うことにより、救い主に対する感謝を表すことができます。福音の賜物により自分の生活がどのように祝福されてきたかについて、あなたが教える人たちと話し合うとよいでしょう。だれに福音の賜物を分かち合いたいと思うか、そうするにはどうしたらよいかについて、よく祈りながら考えるように勧めてください。

あかしを分かち合いましょう

このクリスマスにふくいんのたまものを分かち合うことができます。じぶんのあかしをかけたモルモン書をともだちやきんじょの人にプレゼントしましょう。

1. 紙に たて 11.5 センチ よこ 16.5 センチの 長方形を かきます。おとなの 人に 手つだってもらって はさみで 切りぬきましょう。
2. いちばん 上に じぶんの かおの 絵を かくか、しゃしんを はってください。
3. その下に じぶんの あかしを 書きま しょう。
4. おとなの 人に 手つだってもらって、 その紙を モルモン書の ひょうしの うちがわに はります。



青少年

モルモン書を分かち合えるでしょうか

ジョシュ・アーネット

中学3年のとき、セミナーの先生がクラスみんなに、会員でない友達にモルモン書をプレゼントするよう勧めました。どうしようもなく気が小さいわたしでしたが、その勧めに従うことにしました。

勇気を振り絞るのに2日かかりましたが、ようやく昼休みに友達のプリトニーにモルモン書をプレゼントし、短い証を伝えることができました。プリトニーは、ありがとうと言ってくれました。

学年末にプリトニーは引っ越してしまいましたが、連絡は取り合っていました。彼女は新しい学校のことや、友達のほとんどが教会員だと教えてくれました。でも、霊的なことについて話すことはまったくありませんでした。

それが、わたしが伝道に出る前に変わりました。重大な知らせがあるというメッセージをプリトニーからもらったのです。そこには彼女がバプテスマを受けること、そしてこれまで友達でいてくれて、良い模範を示してくれたことに感謝したいとありました。

神は伝道経験のない恥ずかしがり屋の15歳の少年を使い、受け入れるとっておかれた人に福音を分かち合うように導いてくださいました。御霊に耳を傾ければ、だれでも、回復された福音について知る準備ができた人々を周りから見つけられることを知っています。一人でも主のもとに導くならば、「[わたしたち]の父の王国で彼[あるい

は彼女]とともに受ける[わたしたち]の喜びはいかに大きいこと[でしょうか。]」(教義と聖約 18:15)

著者はアメリカ合衆国ワシントン州在住です。



祈りをもってこの資料を学び、訪問先の姉妹に何を伝えるべきか分かるよう祈り求めてください。救い主の生き方と使命が理解できるようになると、救い主を信じるあなたの信仰はどれほど増し、家庭訪問を通してあなたが見守っている姉妹にどれほど祝福が注がれるでしょうか。詳しくは reliefsociety.lds.org [英語] をご覧ください。

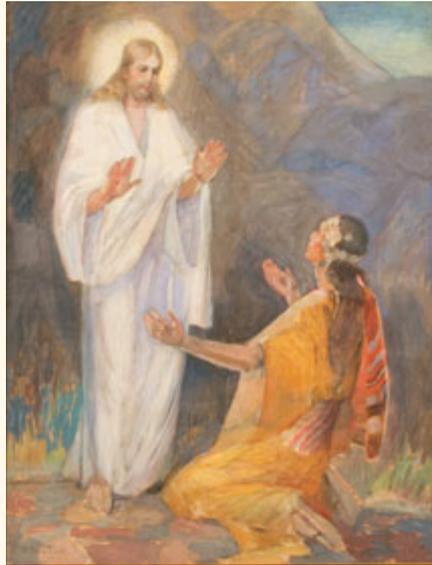
イエス・キリストの 聖なる召し—— 神の独り子

これは救い主の使命を様々な面から採り上げる、一連の家庭訪問メッセージの一つです。

わたしたちの救い主イエス・キリストは、神の独り子と呼ばれます。それは、死すべき人間の母と不死不滅の御父の間に誕生された、この地上でただ一人の御方だからです。主は御父である神から神聖な力を受け継がれました。母マリヤからは死すべき体を受け継ぎ、飢えや渇き、疲労、苦痛、さらには死をも身に受けられました。¹

イエス・キリストは御父の独り子であられたために、御自身の命を捨てて再びそれを得ることがおできになりました。聖文は、わたしたちは「キリストの贖罪を通じて」「復活する」と教えています(モルモン書ヤコブ4:11)。また、「信じる」ならば、人はすべて「不死不滅によみがえり、永遠の命を受けられる」ともあります(教義と聖約29:43)。

イエスが御父の独り子であられることの意味をより深く理解するようになる時、キリストを信じるわたしたちの信仰は増し加えられます。十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老は次のように言っています。「イエス・キリストを信じる信仰は次の事柄に対す



る確信と確証です。(1) イエスが神の独り子であられること、(2) 主の永遠の贖罪、(3) 主が文字どおり復活されたこと。² 現代の預言者はこう証しています。「イエス・キリストは……肉における独り子、世の救い主でした。³

聖文から

ヨハネ3:16; 教義と聖約20:21-24; モーセ5:6-9

注

1. 『福音の原則』52-53 参照
2. D・トッド・クリストファーソン「キリストを信じる信仰を築く」『リアホナ』2012年9月号、13
3. 「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2-3

何ができるでしょうか?

1. イエス・キリストの役割を理解することは、なぜ大切でしょうか。
2. 聖約を守るときに、信仰をどのように増すことができるでしょうか。

信仰・家族・扶助



わたしたちの歴史から

新約聖書には、名前が記されている人もそうでない人も含め、イエス・キリストを信じる信仰を表し、主の教えを学んで実行して、主の教導の業と奇跡と威厳について証した女性たちがいたことが記されています。これらの女性は模範的な弟子となり、救いの業における重要な証人となりました。

例えば、マルタは救い主の神性について強い証を述べ、言いました。「あなたがこの世にきたるべきキリスト、神の御子であると信じております。」(ヨハネ11:27)

救い主の神性について最も早くに証した人の中に、母マリヤと、そのいとこエリサベツがいます。天使ガブリエルがマリヤを訪れてから間もなく、マリヤはエリサベツのもとを訪ねました。マリヤのあいさつを聞くとすぐに、エリサベツは「聖霊に満たされ」(ルカ1:41)、マリヤが神の御子の母となることを証しました。

主は栄光のうちに 地上に戻って来られる

わたしたちが教会で行うすべてのこと、すなわち、伝道活動、家族歴史と神殿活動、福音を教えること、キリストのような生活をする、これらはすべてわたしたちやほかの人々を永遠の命と主の再臨に備えさせるものです。¹

最初の来臨である主の死すべき生涯を目にした人々は比較的少数でした。しかし、主が「力と大いなる栄光とをもって」戻って来られるときには、すべての人がそれを目にします（教義と聖約 29：11）。再臨は福千年の到来を告げるものであり、福千年になると、救い主は「千年の間地上で人々とともに義のうちに住〔まわられます〕」（教義と聖約 29：11）

聖典には再臨の前に起こる数多くの出来事が記されています。それには次のようなことが含まれます。

- 大背教、すなわち、真理からの離反（2テサロニケ 2：1－3；2テモテ 4：3－4 参照）。
- 福音と神権の回復、ならびにモルモン書の出現（イザヤ 29：4－18；使徒 3：19－21 参照）。
- 福音が全世界に宣べ伝えられる（マタイ 24：14 参照）。
- 戦争、悪事、自然災害（マタイ 24：6－7；2テモテ 3：1－7 参照）。
- 「天と地とにしるし」（ヨエル 2：30。マタイ 24：29－30；教義と聖約 29：14－16；49：23 も参照）。

わたしたちは主の再臨が近づいているしるしを見ることはできますが、主が戻って来られる正確な時を知っている人はだれ一人いません。「その時、その日は、だれも知らず、天にいる

天使たちも知らない。人の子が来るまで、彼らは知らないであろう。」（教義と聖約 49：7）

救い主が戻って来られる日に備えていない人々がいるでしょう。主の再臨は悪人にとっては恐ろしい時ですが、義人にとっては平和と勝利の時です。そのために、聖文と末日の預言者たちは、救い主が再び来られる時がいつであっても救い主にお会いする備えができていないような生活をするように、わたしたちを教えています。主は次のように教えておられます。

「わたしが栄光のうちに来るその日に、わたしが十人のおとめについて語ったたとえは成就するであろう。

賢くて、真理を受け入れ、自分の導き手として聖なる御霊を受け、そして欺かれなかった者、すなわち、まことにわたしはあなたがたに言うが、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。」（教義と聖約 45：56－57。マタイ 25：1－13 も参照）■

詳しくは、ルカ 21 章；2ペテロ 3 章；教義と聖約 45：16－52；88：87－107；133：17－56 をご覧ください。

注

1. 例として、デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号、24、ならびにニール・L・アンダーセン「この世を再臨に備える」『リアホナ』2011年5月号、49 参照



「わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証します。『こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る』のです（イザヤ 40：5）。イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひざがかがみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つこととなります。」

『生けるキリスト——使徒たちの証』『リアホナ』2000年4月号、3



主の再臨の前に、
地震、暴風雨、
雷と稲妻を伴う嵐があり、
海の波は「その境を越えて」
打ち上げます (教義と聖約
88 : 89 - 90 参照)。



「主の大いなる恐るべき日が
来る前に、日は暗く、月は血に変わる。」
(ヨエル 2 : 31)

救い主は栄光のうちに戻って来られます。
そのとき、「主の前の栄光は
まことに大いなるものであるため、
太陽は恥じてその顔を隠す」でしょう
(教義と聖約 133 : 49)。

救い主は将来
オリブ山に立たれます。
その時にユダヤ人は尋ねます。
「あなたの両手と両足の
この傷は何ですか。」
すると救い主は答えられます。
「この傷は、
わたしの友の家で負った傷である。
……わたしは……十字架に
つけられたイエスである。」
(教義と聖約 45 : 48 - 52 参照)

義人は復活し、
雲の中におられる
救い主に会うために
引き上げられます
(教義と聖約
88 : 95 - 97 参照)。



子供たちが聖霊に気づくように助ける

メリリー・ブラウン・ボヤック

わたしたちは聖霊が語りかけられる様々な方法を用いて、子供たちが証^{あかし}を増すのを助けることができます。

4人の息子を持つ親として、わたしたち夫婦は、子供たちが御霊を感じ、証を得るように助ける方法を常に求めています。わたしたちはあることから、少し変わった方法でこの原則を理解することができました。わたしはある店にいたときに御霊の促しを受けたのです。

社会科の授業で長男の成績が少しずつ下がっていました。わたしたちはそのことについて長男と話し、もっと一生懸命に勉強するように励ましましたが、それでも良くなりませんでした。わたしたちは彼を助ける方法について祈っていました。ある日、わたしは書店で、特売になっていた本の中から1冊の本を買うようにという強い気持ちを感じました。

その本は、人それぞれに特有の学習方法があることを述べたものでした。多く的人是は視覚から学びます。すなわち、目で見るものから最もよく学ぶのです。このような人はしばしば芸術や読書を好みます。聴覚で最もよく学ぶ人もいます。彼らは聴くことで非常に効果的に情報を処理します。このような人は往々にして音楽が大好きです。最後に、運動感覚による学習者がいます。運動時や活動時に最もよく学びます。このような人は学校で、教師から静かに座っているように



求められると、時々苦痛を感じます。彼らは動き回っているときに最もよく学ぶからです。

そこに答えがありました。長男は明らかに聴覚による学習者でした。音楽や話すことが大好きでした。彼が社会科の授業中にほかのことでよく

クラスから呼び出され、その後で、家に帰って資料を読むように教師から言われていたことが分かりました。彼はそれを苦痛に感じていました。なぜなら、クラスの話し合いを聞いていなかったからです。わたしたちはそのことが分かったとき、割り当てられた

資料を声に出して読み、その後でわたしたちと一緒に話し合うように彼に勧めました。そうすると、息子の成績はすぐに持ち直しました。

霊的な経験を得られるようにする

しかし、学習方法についてのわたしたちの理解は、そこにとどまりませんでした。このことについてさらに学んで子供たちを観察したとき、子供たちが最もよく学べる方法によって聖霊がしばしば子供たちを教えてください、わたしたちは気づいたのです。預言者ジョセフ・スミスは、御霊はわたしたちの言語で、わたしたちが理解できる方法によってわたしたちに語りかけてくださると教えています。聖霊は、すべての人、実に幼い子供たちでさえも理解できるように、言葉を変えて語りかけてくださるのです。「天の御父はわたしたちのためにいつもそばにいてくださいます。御父は人の理解できる水準に合わせてくださいます。『イエスは幼い子供のもとに來られると、幼い子供の言葉と能力に合わせられます。』（ジョセフ・スミス、*History of the Church*, 第3巻, 392で引用)」¹

わたしたちが理解できるように、御霊が語りかける方法を変えてくださるということを知っていれば、両親は、子供たちが最もよく理解できる方法で聖霊からの教えを聞けるように、彼らのために機会を設けようとする^{おしえ}ことで、「あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子らは大いに栄える。」(イザヤ 54:13)

すでに述べたように、長男が得意とする学習方法は聴覚による学習でした。長男と三男は二人とも音楽が大好きなので、わたしたちは家でよくモルモンタバナクル合唱団の美しい曲やクラシック音楽を流しました。この環境で二人は御霊を強く感じました。

わたしたちは福音についても多くのことを活発に話し合いました。これは彼らが真理を学ぶ助けとなりました。真理を耳にすると、御霊によって理解が促されたのです。

もう一人の息子は主として視覚による学習者でした。彼は読書が大好きで、聖典や福音について書かれた本を読んでいるときに最もよく御霊を感じました。わたしたちは彼に多くの本を与えて読書ができるようにしました。そのことは、彼が御霊を感じ、証を得る助けとなりました。さらにわたしたちは、我が家が視覚学習を楽しめる場所となるように、福音の場面を描いた写真や格言を壁にはりました。

次男は視覚と運動感覚による学習者でした。彼は非常に活発な子供で、父親と一緒にマウンテンバイクに乗ることやハイキングすることに最も喜びを感じていました。わたしたちは、彼が野外で活動するとき最もよく御霊を感じることを知りました。わたしたちは何回も家族のキャンプ旅行をし、そこでイエス・キリストや創造、救いの計画について話しました。次男はこのような活動に参加したとき、これらのメッセージに心を強く打たれました。

わたしたち夫婦は、奉仕をするときに運動感覚による学習が行われることを知りました。それで、子供たちが見て、聞いて、参加できるように、彼らと一緒にたくさんの奉仕活動を行いました。これによって、息子たち全員が慈愛とキリストのような奉仕についての教訓を学ぶ、素晴らしい環境が築かれました。これらのプロジェクトは特に次男にとって有効でした。

聞いて理解する

さらにわたしたちは、人は様々な方法で聖霊の声を「聞く」ということを学びました。わたしは日曜学校で



比較的新しい改宗者にレッスンを教えていました。そこで、このように質問しました。「皆さんはどのように御霊を感じていますか。」彼らの答えにとっても教化されました。ある人は「自分の思いの中に御霊をはっきりと感じる」と言い、別の人は「心の中に温かい気持ちを感じる」と言い、また「大きな平安を感じる」と言う人もいました。教会員になって数か月の一人の女性は、「体全体にチクチク刺すような感じを受ける」と言いました。また何人かは、時折語りかける声を「聞く」、あるいは新しいアイデアがわいてくると述べました。

十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老はこう教えています。「さらに一般的な啓示や靈感の中には、言葉や思いが心に浮かぶ(エノス 1:10; 教義と聖約 8:2-3 参照), 突然思いが照らされる(教義と聖約 6:14-15 参照), 行おうとしていることに対して積極的あるいは消極的な思いを抱く、演劇や音楽などの芸術から靈感を得るというものもあります。……『靈感は音よりも感情として来る



方が多いのです。』²

わたしたち一人一人が様々な方法で聖霊の言葉を聞き、感じるのには明らかです。子供たちは温かい気持ちを感じた経験がないかもしれないので、「そのような気持ちを感じるでしょう」と単純に教えるだけでなく、わたしたちはそれ以上のことをしなければなりません。彼らは別の方法でも靈感を受けることができますのです。

元七十人会長会のジェイ・E・ジェンセン長老は、伝道部の訪問に出かけた十二使徒定員会の一員について次のような話をしています。この使徒はゾーン大会の合間に、前の大会で話をした七十人の会員に向かってこう

言いました。「あなたが宣教師たちに教えたことは、むしろ逆効果だったのではないのでしょうか。わたしは各地の教会を訪れたとき、心が燃えるという経験をした人が比較的少ないことを知りました。実際、長い間祈ったり断食したりしてもまったくそのような気持ちを感じないために挫折感^{きせつ ほんりよ}を味わうようになったと告げる人も多くいました。」ジェンセン長老はさらにこう続けています。「わたしはこれまで何年か、主の御霊の働きが現れるいろいろな方法を知ろうと努めてきました。確かに神は天から語りかけておられます。しかし、神が御自身のことを示し、確認し、指示を与えられる

方法は様々です。』³ 御霊が語りかける方法によって御霊の声を聞くようにする必要があるので、子供たちに教えることが非常に大切です。

わたしたちは子供たちに教えるとき、信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物に関する原則を分かち合います。与えられる促しを聞いて理解するように教えることは、彼らの霊的な成長にとってきわめて大切です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）は次のようにわたしたちに勧告しています。「自分の手もとにいるうちに、[子供たち]が最大限の強さと信仰を得られるようにすることが必要です。また、子供たちには天から与えられる、さらに大きな力が必要です。』⁴

聖霊を通じて天の御父から導きと指示を受けることは、わたしたちの人生にとって大きな祝福です。これらの促しや感覚、指示を受け入れ、それに注意を払う方法を子供たちに教えるとき、彼らは個人的な証を得ることができ、その証は将来における強さを与えます。聖霊が常に伴侶^{ほんりよ}となり、彼らのもっとよく聖霊の声を聞けるようになることでしょう。わたしたちは親として、子供たちがこの過程を踏む助けをし、子供たちに祝福が与えられるようにすることができるのです。■

著者はアメリカ合衆国カリフォルニア州在住です。

注

1. ジェラルド・コセー「子供さえも理解できる」『リアホナ』2008年11月号, 32
2. ダリン・H・オークス「啓示が必要な8つの理由」『リアホナ』2004年9月号, 8
3. ジェイ・E・ジェンセン, "Have I Received an Answer from the Spirit?" *Ensign*, 1989年4月号, 21 - 22
4. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちの幼い子供たち」『リアホナ』2007年12月号, 7

悔い改め

イエス・キリストの贖罪しよくざいは悔い改めを可能にします。そして、わたしたちは皆悔い改めなければなりません。

罪が重大なものであるためにビショップや支部会長に告白する必要がある場合、時々わたしたちは恐れることがあります。それについて、七十人のブラッドリー・D・フォスター長老が、今月号の54-55ページの記事の中で説明しています。しかし、「悔い改めの道を歩んだことのある人なら、その道には終わりがあるということだけではなく、歩んだ道のりを振り返ってみると、次のようなことが分かったと言うでしょう。」

「あなたにはできる。やれば、すべてがもっとよくなる。」……

「その道を歩み始めた途端、安堵あんどの気持ちを感じるでしょう。」……

「ビショップはこの窮状を切り抜けるように助けてくれます。あなたはビショップを愛するようになり、彼を一生忘れることはないでしょう。」

青少年に教えるための提案

あなたが教える青少年と一緒に、『若人の強さのために』の「悔い改め」の項を読みます。贖罪によって得られる祝福と、悔い改めがそれをどのような方法で可能にするかについて話し合ってください。

悔い改めと贖罪についてのあなたの証あかしや、それらがあなたの人生にどのような意味を持つかを分かち合うこともできます。また、青少年にも、悔い改めについての証を分かち合ってもらおうとよいでしょう。さらに、必要に応じて、弟や妹が以下の活動を行うのを助けるように勧めます。

子供に教えるための提案

主から従うように命じられた道にとどまるとはどういう意味かを説明するために、おもちゃの自動車（または、飛行機、船、馬車）を使ってレッスンをを行います。地図を使い、地図上のある地点から別の地点までその自動車を動かすように子供に言って、その後こう尋ねます。「自動車が道からそれそうになったら、どうする必要があるかな。」

自動車が道からそれるときは正しい道に戻さなければならないということが分かったら、これは悔い改めとどのように似ているか尋ねます。わたしたちは人生という旅をするとき、時々向きを変えて正しい道を目指すようにしなければならないことを説明します。時には自分自身でこれを行えますが、助けが必要な場合もあります。自分で軌道修正ができた経験や、ほかの人に助けてもらった経験、また天の御父とイエス・キリストから助け



悔い改めについての聖句

箴言 28:13

イザヤ 1:16-18

エノス 1:2-8

モーサヤ 4:1-3; 26:30-31

アルマ 34:32-33

ヒラマン 12:23

3 ニーファイ 9:20-22

教義と聖約 18:10-13;

58:42-43

を受けられる方法について話すよう、子供たちに勧めます。このテーマについて教えるとき、8歳未満の子供は責任能力がなく、悔い改めを必要としないこと、しかし悔い改めの原則について学ぶことは彼らにとって価値あることに留意してください。

答えについて一緒に話し合い、悔い改めがどのような点で天の御父とイエス・キリストからの賜物たまものであるかについて話してください。その賜物によって、わたしたちは再び御二方のもとに帰ることができるのです。■

教会のニュース

教会のニュースおよび出来事についてもっとお知りになりたい方は news.lds.org
(訳注—日本語は lds.org/church/news?lang=jpn) にアクセスしてください。

M・ラッセル・バラード長老、 ヨーロッパの聖徒たちに向けて語る

末日聖徒が教会と神の王国を推し進めるに当たり、この時代に求められているのは、初期のヨーロッパの開拓者が示したような信仰であると、十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ノルウェーの教会員に向けた放送の中で語った。

「これから 20 年後、皆さんの国で末日聖徒イエスキリスト教会はどのようになっているでしょうか」とバラード長老は語った。「初期のスκανジナビアの

会員がまさにそうだったように、わたしたちも信仰と勇気をもって行動してきたと、また、すべてのワード、支部、ステーク、地方部で教会を強めるために最善の努力を払ってきたと報告できないとしたら、彼らに合わせる顔があるでしょうか。」

この放送は、スウェーデンのストックホルム、イングランドのロンドン、フランスのパリへのバラード長老による最近の訪問の一環として行われたものである。

バラード長老はストックホルムで、スウェーデンで伝道中の宣教師と集会を持ち、ヤングシングルアダルトに向けて話をした。その集会の様子はヨーロッパ地域の 402 の集会所に向けて放送された。バラード長老は結婚の大切さについて語り、ヤングアダルトが福音の原則に従って生活するに当たってなす選択が教会の将来の立場を決めることになると強調した。長老は、この年末までに各人がだれか一人を教会に連れて来るか、だれかが再び教会に戻れるようにとチャレンジした。

バラード長老はまた、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ノルウェーの全集会所に向けて放送された北欧大会においても、教会員に話をした。北欧の国々における教会員の数は 2 万 3,000 人以上で、ユニット数は 123 に上る。

イングランドのロンドンでは、バラード長老とヨーロッパ地域のジョセ・A・ティシエラ会長が、ロンドン伝道部およびロンドン南伝道部で奉仕中の宣教師と集会を開いた。数百人の宣教師がバラード長老の証に耳を傾け、伝道の業に対する長老の熱意を感じ取った。

フランスでは、バラード長老はベルサイユで宣教師と集会を開いた。また、2011 年 10 月の総大会で建設が発表されたフランス・パリ神殿の建設予定地にも立ち寄った。

『チャーチニュース』のサラ・ジェーン・ウィーバーの記事より抜粋。

6月にスウェーデンで開かれた集会の後、教会員の中に立つ十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老



モルモン書、 マレー語で出版される

教会ではマレー語のモルモン書の出版を発表したが、これでこの聖典の出版は109か国語目となる。今年3月にはスロバキア語のモルモン書が入手できるようになった。マレー語はマレーシア、シンガポール、インドネシア、インドなどの東南アジアの国々で使われている。

マレー語のモルモン書は現在、地元の教会配送センターおよびオンラインストア store.lds.org (アイテム番号 35607348 (訳注——この本の登録番号)) および scriptures.lds.org から入手することができる。

LDS.org にある 子供を教えるための リソース

教師や指導者や親たちは何十年も、『フレンド』や『リアホナ』といった教会機関誌の助けを借りて、福音を教える技術を向上させてきた。現在は、同じリソースの一部がオンライン LDS.org で入手でき、探しているレッスンのリソースを簡単に見つけられるようになっている。

LDS.org (訳注——日本語は lds.org/?lang=jpn) の検索バーに「子供を教えるためのリソース」と入力すると、テーマ別、カテゴリー別、初等協会のレッスン別にリソースを検索することができる。このページには初等協会の手引きのページからも進むことができる。

「子供を教えるためのリソース」はスペイン語とポルトガル語でも入手可能で、これらの言語では『リアホナ』のホームページからアクセスすることができる。

リソースには、物語、活動、『リアホナ』の記事のほか、家庭や教会で子供を教えるために教会が承認しているその他のメディアが含まれる。また、毎月新たなテーマが追加される。

『教会のニュースと出来事』のカミール・ウェストの記事より抜粋。

初等協会、創立135周年を祝う

135年前、アメリカのユタ州ファーミントンに住むジョン・W・ヘスビショップは、ワードの子供たちの振る舞いが気がかりでならなかった。ビショップはワードの母親たちを一堂に集め、幼い子供たちを導くことの大切さについて話し合った。

オーレリア・スペンサー・ロジャーズ姉妹はこの話し合いに耳を傾け、1878年の春にファーマントンを訪れたエライザ・R・スノー姉妹にこの件について相談した。

今度はスノー姉妹がジョン・テラー大管長と会って話したところ、ヘスビショップにワード内で子供たちの

ための組織を作る権限が与えられた。

ファーマントンワード初等協会は、1878年8月11日に正式に組織され、ロジャーズ姉妹が会長となった。

今日、世界中のおよそ100万人の子供たちが、それぞれのワードや支部で毎週、初等協会から恩恵を受けている。初等協会の指導者と教師は、両親がその子供たちに天の御父とイエス・キリストと、回復された福音に対する証を得させるという役割を果たすことを支援するよう努めている。

中央初等協会会長会のローズマリー・M・ウィクソム、ジョン・A・ステューブズ、チェリル・A・エスプリンによる記事から抜粋。



『初等協会の最初の集会』リン・フォーセット、ゴードン・コーブ画



プライマリーの指導者と教師は、子供たちが天の御父とイエス・キリストと回復された福音に対する証を得られるよう努めている。



七十人
ブルース・D・
ポーター長老



急ぎ行きて 拝まずや

罪、環境、あるいは過去の出来事など、わたしたちを縛りつけているものが何であれ、偉大なインマヌエルである主イエス・キリストは、わたしたちを解放するためにおいでになったのです。

イエス・キリスト降誕の700年以上前、イザヤは主について預言しました。その預言の言葉は、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルのオラトリオ『メサイア』の中で歌い継がれています。「ひとりのみどりごがわれわれのために生まれた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」(イザヤ9:6)

ヘンデルの『メサイア』では、壮麗な演奏に乗せて、イザヤ40:9から次のような勧告も与えられています。「よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、『あなたがたの神を見よ』と。」¹

あなたがたの神を見なさい、ベツレヘムで幼子^{おきなご}としてお生まれになり、布にくるまれた神を。あなたがたの神を見なさい、民衆の中を同じ一人の人として歩けるように、貧しく質素な中でお生まれになった神を。あなたがたの神を見なさい、肉の体を受け、御自身が創造したこの地上で生きるために来られた、無限かつ永遠^{あがな}の贖い主を。

わたしと一緒に、ベツレヘムにおけるあの聖なる最初のクリスマスへと時をさかのぼり、主の降誕について深く考えてみましょう。インマヌエル(イザヤ7:14参照)、エッサイの株(イザヤ11:1参照)、日の光(ルカ1:78参照)、そして全能の主(2コリント6:18参照)と呼ばれる御方は、時の中間の、夜のしじまの中で



お生まれになりました。その誕生は、神が人に対して御自身を低くして地上においでになるという、約束された創造主の訪れでした（1ニーファイ 11：16 - 27 参照）。イザヤが書き記したように、「暗やみの中に歩んでいた民は大なる光を見た。暗黒の地に住んでいた人々の上に光が照った」のです（イザヤ 9：2）。

近代の啓示から、予任されたイスラエルの王が地上に来られたのは春だったことを、わたしたちは知っています（教義と聖約 20：1 参照）。ミカは、主が「ユダの氏族のうちで小さい者」であるベツレヘムでお生まれになると預言しました（ミカ 5：2）。主の降誕の地であるその村は、大都市エルサレムから北に 8 キロという、さほど遠くない場所に位置していました。エルサレムはユダヤの都であり、神殿所在地、ローマ権力の拠点でもありました。一方、ベツレヘムは牧畜と農業を主体とする質素な田舎の村でした。有名なことといえばただ一つ、ダビデの生地だということだけでした。ダビデは古代イスラエルの王であり、その家系からキリストがお生まれになることになっていました。そのために、この小さな村は「ダビデの町」として広く世に知られていたのです。「命のパン」として知られるようになる主がお生まれになるまで、ヘブライ語で「ベース・レヘム」、すなわち「パンの家」² というその町の名に、特に深い意味があるとは考えられていませんでした。

ベツレヘム周辺の野原には数多くの羊の

主は、
命というものを
あらゆる面、
あらゆる角度から、
上からも下からも
御存じでした。
最も大いなる
御方が
御自身を
最も低い者とされ、
天の羊飼いが
小羊になられた
からです。

群れがおり、早春は昔から出産の季節でした。羊飼いはほぼ毎晩、澄み切った夜空の下で夜通し羊の世話をするのが常でした。ですから、救い主の降誕を知らせた天使たちは、彼らを起こす必要はなかったはずです。

神の小羊

羊の出産の時期にお生まれになったこの男の子は、「神の小羊」として知られています（ヨハネ 1：29；1ニーファイ 11：31；教義と聖約 88：106）。この呼び名には深い意味があります。それは、主が子羊と同じ時期に生まれ、いつか「ほふり場にひかれて行く小羊のように」なられる日が来るからです（イザヤ 53：7）。しかし、同時に、主は子羊の世話をする良い羊飼いであります（ヨハネ 10：11 参照）。主の生涯にかかわるこの二つの象徴はこのように、仕える者と仕えられる者、両者を表しているのです。キリストが両者の役割を果たされるのは当然のことでした。なぜなら、主はこの世にあっては「万物の下に身を落とし」（教義と聖約 88：6）、永遠にあっては「高い所に昇り」、万物の中に、そして万物を貫いてあって、「万物の周りにあ[られる]」からです（教義と聖約 88：6, 41）。主は、命というものをあらゆる面、あらゆる角度から、上からも下からも御存じでした。最も大いなる御方が御自身を最も低い者とされ、天の羊飼いが小羊になられたからです。

主の訪れは単なる偉大な預言者の誕生や、約束された王位継承者の到来ではなく、地上における唯一完全な人物の出現すら上回るものでした。それは、「高き身なるを人のごとく」された天の神の訪れでした。³

イエス・キリストは世の創造主であり、旧約聖書の偉大なエホバであります。シナイ山に響き渡ったのは主の声、選ばれたイスラエルの民が荒れ野をさまよったときに彼らを支えたのは主の力、そしてエノクやイザヤやすべての預言者を訪れて来るべき栄光を告げられたのも主でした。そこに主の降誕の最大の奇跡があります。すなわち、神であり、天地の創造主である主が世にその御姿を現されたときに、無力で、人の助けが必要な赤ん坊の姿をお選びになったということです。

古代ヘブライの言い伝えによると、メシヤは過越の祭のときに生まれるとされていました。時の中間には過越の祭の週は確かに4月に当たっていたことが分かっています。過越の祭は神聖なユダヤの祭で、イスラエルがエジプトの初子に死をもたらした滅ぼす天使から救われたことを記念するものです。子羊を犠牲としてささげ、その血を家の入り口のかもいとそれを支える木の柱に塗ったイスラエル人の家族は皆、救われました(出エジプト12:3-30参照)。キリストが過越の祭の時期に降誕されてから33年後、死と罪という滅ぼす天使からその民を救うために、主の血は十字架の木の柱に付けられました。

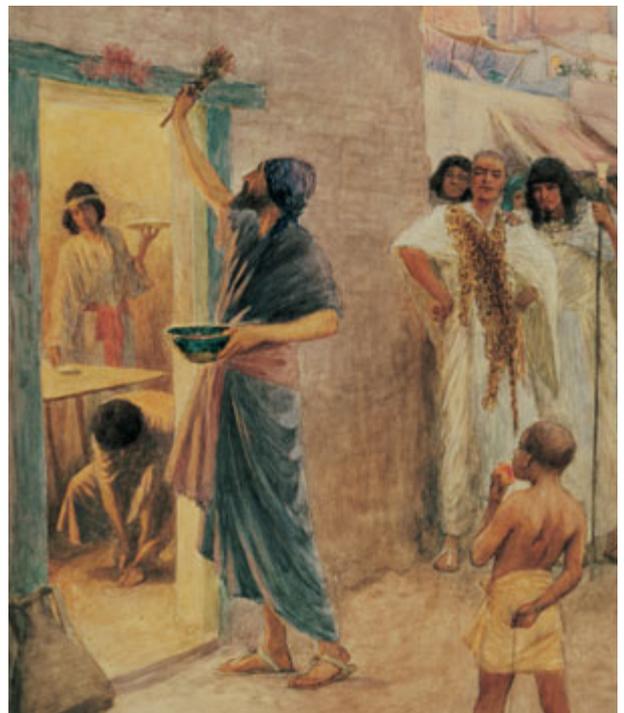
マリヤとヨセフが宿の客間を取ることができなかったのは、過越の祭のためだったかもしれません。過越の間は、エルサレムの人口が数万倍に膨れ上がり、旅人は周囲の町に宿を求めるしかありませんでした。皇帝アウグストの勅令による人口調査に応じるため、マリヤとヨセフはヨセフの先祖の地であるベツレヘムに行きました。人口調査のための登録には年内であればいつでもベツレヘムに出頭できる猶予があったの

ですが、彼らが過越の季節を選んだのは恐らく、モーセの律法により、すべての男子にエルサレムで過越を迎えるよう義務づけられていたからでしょう。⁴ ベツレヘムは聖なる都のほぼ隣に位置していたため、ナザレの夫婦は一度に二つの義務を果たすことができたのです。

宿の主人は幾分悪名高く歴史に伝わってしまいました。しかし、過越の間、その地方一帯が混雑していたことを考えると、ナザレの二人に提供する客間がなかったからといって彼を責めるわけにはいきません。過越の巡礼者の大多数はエルサレム周辺の野原に何千も天幕を張って野宿しましたが、ほかの数千人は、隊商宿として知られていた地元の宿に身を寄せました。ベツレヘムの宿はきっと人であふれかえっていたはずで、宿の主人が馬屋を提供したのは、純粋に善意の表れだったのかもしれませんが。

たとえ夫婦が宿に客間を取れていたとしても、部屋の設備は非常に粗末だったはずで、当時の典型的な隊商宿は石造りで、小部屋が幾つも並んでいました。小部屋はそれぞれ三方にだけ壁があり、一方は人目につく共用部分に向かって開いていました。しかし、馬屋

古代ヘブライの
言い伝えによると、
メシヤは
過越の祭のときに
生まれると
されていました。
時の中間には
過越の祭の週は
確かに4月に
当たっていたことが
分かっています。



は壁を巡らせた中庭か、石灰岩でできた洞穴で、そこに宿泊客の動物が繋がっていました。⁵ 中庭であろうと、洞穴あるいはほかの場所であろうと、動物に囲まれたキリストの降誕は、混雑した宿の中に比べて明らかに一つの点で勝っていました。少なくともそこには平安があり、プライバシーが保たれていました。その意味では、馬屋を提供されたのは祝福だったと言えます。おかげで、人類史上最も神聖な誕生が、敬虔な、隔離された環境で可能になったからです。

囚われ人を放免する

最初のクリスマスからさかのぼること 700 年、預言者イザヤはメシヤについての預言を次のように書き記し、後に救い主がその言葉をナザレの村人たちに読み聞かせておられます。「主なる神の霊がわたしに臨んだ。これは主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、わたしをつかわして心のいためる者をいやし、**囚われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げ**〔るためである。〕」（イザヤ 61：1。ルカ 4：18 - 19 も参照）

キリストの使命が囚われ人に放免を告げ、縛られている者に解放を告げることでありと読むと、恐らくわたしたちは真っ先に、霊界にいる死者のために行われる主の務めについて思い浮かべるかもしれません。しかし、**わたしたちは皆、囚われ人です**。死すべき肉体の朽ちる状態と弱さに囚われ、肉の誘惑に身をさらし、そして病と、最終的には死を免れることのできない囚われ人であり、**わたしたちは皆、解放される必要があります**。

罪、環境、あるいは過去の出来事など、わたしたちを縛りつけているものが何であれ、偉大なインマヌエルである主イエス・キリストはわたしたちを解放するためにおいでになったのです。主は囚われ人に放免を告げ、死の縄目、罪の牢獄、無知、傲慢、過ちから解放してくださいます。預言には、主は囚われた人に向かって「出よ」と言われるとあります（イザヤ 49：9）。わたしたちが自由を得るための唯一の条件は、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって主のもとに来て、悔い改め、御心を行うよう努力することです。

30 年ほど前、わたしはある男性と出会いました。仮にトーマスと呼びましょう。知り合ったとき彼は 45 歳でした。その 20 年前に彼の両親が教会に入りました。トーマスは両親の新しい宗教にまったく関心がありませんでした。しか

し、両親は彼を愛し、いつか息子が回復された福音の真理を知る日が来るよう願っていました。何年もの間、宣教師に会うだけ会ってメッセージを聞くよう、息子を何度も説得しようとしました。彼は断わり続け、信仰のことで両親をあざけるようになりました。

ある日、居ても立っても居られなくなった母親はこう言いました。「トーマス、少しでも宣教師の話聞いてちょうだい。そうしたら、もう二度とあなたに教会のことは話さないわ。」願ってもない取り引きだと思ったトーマスは、宣教師と会うことに同意しました。最初の 3 回のレッスンの間、彼はただ傲慢な態度で座り、たまに長老たちの教えている内容をからかうだけでした。

イエス・キリストの贖罪と福音の第一の原則について教える 4 回目のレッスンの間、トーマスは何も言わず、いつになく黙ってじっと耳を傾けていました。レッスンの最後に長老たちが救い主について証をしました。宣教師の一人が御霊の促しを感じて聖書を開き、次の言葉を読みました。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」（マタイ 11：28 - 29）

何の前触れもなく、トーマスはわっと泣きだしました。「キリストはわたしの罪を赦すことができになると言うのですか」と彼は尋ねました。「わたしはひどい生活をしてきました。自分の罪の記憶にさいなまれてきたんです。この罪悪感から解放されるなら何でもします。」

彼の傲慢さは、罪と罪悪感に囚われた心を隠すための強がりだったのです。長老たちはトーマスに、ただ悔い改めてバプテスマを受け、確認の儀式を受けるなら、キリストは必ず彼を赦し、罪悪感の重荷から解き放ってくださると断言しました。それから贖いの力について証を述べました。その瞬間から、トーマスの生活は何もかも変わりました。悔い改めて克服しなければならないことがたくさんありましたが、主の祝福を通して、バプテスマを受ける資格を得ることができました。

それから 20 年余り後、わたしがドイツ・フランクフルト神殿の礼拝堂に座っていると、目の前にいた白髪の男性が振り向いて言いました。「ポーター長老ではありませんか。」



大変うれしいことに、そこにいたのはイエス・キリストの力によって囚われの身から解放され、主の教会で今もお忠実なあのトーマスでした。

このクリスマスの時期に、一人一人が次のように決心してはどうでしょうか。天の御父に祈ると決意し、神の愛子の力が日々ともあって、大小にかかわらず、自分を捕らえているものから解放してくださるようお願い求めると決心するのです。

おお聖なる夜

1987年の12月、クリスマスを2週間ほど後に控え、わたしは出張でイスラエルに行きました。残念ながら、そのころの聖地は平和ではありませんでした。ヨルダン川西岸でデモが起こり、エルサレムの旧市街には人影がなくて、商店は板張りがしてありました。政治的に張り詰めた空気が満ちていて、さらに間の悪いことに、その週はほとんど毎日冷たい雨がしとしと降るあいにくの天候でした。武力衝突を恐れて観光客の足は遠のいていました。しかし、エルサレムの町を歩くわたしの心は平安に満たされていました。そこは贖い主が心から愛された都市だと知っていたからです。

クリスマスの前の金曜日の夜遅く、わたしはアメリカに戻りました。2日後に安息日が訪れたとき、目覚まし時計から流れる「おお聖なる夜」(O Holy Night)の曲で目が覚めました。

この
クリスマスの時期に、
一人一人が
次のように
決心しては
どうでしょうか。
天の御父に祈る
と決意し、
神の愛子の力が
日々ともあって、
大小にかかわらず、
自分を
捕らえているもの
から解放して
くださるよう
お願い求めると
決心するのです。

うまぶねに眠る王の王は
我らが重荷受けんと来し友⁶

その音楽とメッセージに強い感動を覚え、イスラエルの贖い主の栄光ある犠牲と完全な生涯について深く考えたとき、涙が流れました。主は心のへりくだった者の友となり、柔和な者の希望となるためにお生まれになったのです。エルサレムでの経験について考えたとき、地上においてになって、わたしたちすべての重荷をその身に受けてくださったことに対する主への愛が全身にあふれました。主がわたしを友とと思ってくださるかもしれないという考えに圧倒されました。あの日曜の早朝に感じた感動を忘れたことがありません。それは、これまでわたしが受けた証の中で最も純粹なものでした。

世の救い主について証します。主が生きておられることを知っています。世界の創造の前から、主が捕らわれ人の放免を宣言するために予任されておられたことを知っています。主の降誕と生涯について申します。「急ぎ行きて拝まずや」と。⁷ ■

2008年12月9日にブリガム・ヤング大学で行われたディボーショナルの説教、「A Child Is Born」(「一人のみどりごが生まれた」)より。全文〔英語〕は speeches.byu.edu からご覧いただけます。

注

1. 『メサイア』T・テルティウス・ノーブル編(1912年) vi
2. 聖句ガイド「ベツレヘム」の項参照, scriptures.lds.org
3. 「天にまします永遠なる父」『賛美歌』99番
4. Bible Dictionary, “Feasts”の項参照
5. ラッセル・M・ネルソン「救い主が生きておられると知ることのできる平安と喜び」『リアホナ』2011年12月号, 21参照
6. “Cantique de Noël” (「おお聖なる夜」) *Recreational Songs* (1949年) 143
7. 「神の御子は今宵しも」『賛美歌』117番

索引作成は きわめて重要です

索引作成のおかげで、
さらに多くの記録が
オンラインで閲覧可能になり、
会員は先祖の名前を見つけて
神殿に持って行くことができます。

教会機関誌

ジェニファー・グレース・ジョーンズ

キーボードに小さなメモが置かれていました。「このパソコンは午前5時にサミュエルが使います。」ステークで100万の名前の索引を作成するというステーク会長のチャレンジにこたえて、ユタ州に住む14歳のサミュエル・Bは、登校する前に索引作成を行うため朝5時に起きるようになりました。家のパソコンは1台で、6人のきょうだいそれぞれを使って宿題をします。サミュエルはパソコンを使う時間を確保するために、睡眠を少し犠牲にしなければなりません。

ところが、サミュエルの熱意は家族のほかの人にも飛び火しました。間もなく、兄のネイサンが索引作成のためにバスケットボールの時間を割り、妹のアイピリンは読書の時間を削りました。サミュエルの父親はこう言っています。「子供たちからこれほど刺激を受けたことはありません。彼らが始めるまで、わたし自身、索引作成は難しいと思っていました。しかし、実は簡単で楽しいことなのだと言われたいです。」その年の大晦日には、子供たちは真夜中までに索引作成の年間目標を達成しようと頑張りました。

何千キロも離れたグアテマラでは、ラヌザ家族が同じ熱意を示していました。5人の子供とその両親、祖父母の9人から成るこの家族は、1台のパソコンを共同で使っています。子供たちは宿題のために、母親は大学での研究のために、父親は仕事のためにパソコンを使うので、常にだれかがパソコンを使っています。そのうえ、皆が交代で索引作成を行っています。こうして家族全員で2011年に37,000以上の名前を索引化しました。

この子供たちと家族は、2011年10月に十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老が教会の青少年に勧めたチャ

レンジを実行してきました。

「皆さんの多くは、家族歴史活動はおもに年長者が行うことであると思っているかもしれませんが。しかし、わたしの知るかぎり、聖文や教会指導者によって述べられた指針の中には、この重要な奉仕を年長の成人だけにさせるための年齢制限はありません。……

わたしは教会の若い人々に、エリヤの霊について学び、経験するよう勧めます。」¹

速くて簡単な家族歴史

索引作成は、だれもが気軽に家族歴史活動を始め、エリヤの霊を感じることでできる方法です。各国の政府と教会は何世紀もの間、人々と家族の記録を保管してきました。しかし、こういった記録を利用するのは難しく、分類するのにも多くの時間を要しました。以前は、先祖の故郷から遠く離れて住んでいる人々は、その地まで旅をして、記録を調べなければなりません。しかも、家族の名前が一つも見つからない可能性もありました。

2006年にファミリーサーチ索引作成が導入されたおかげで、家族歴史の探求が飛躍的に進歩しました。かつて手書きの記録に埋もれ、遠方の保管所に収められていた名前が転写(索引化)され、現在は一瞬にしてパソコンで検索できるようになりました。これを実現するために、ボランティアの索引作成者たちが、およそ10から50の名前が含まれている記録の「バッチ」を自宅のパソコンにダウンロードします。そして、検索可能な電子索引を作成できるように、名前と日付とその他の情報をファミリーサーチデータベースに入力しています。

ファミリーサーチ索引作成が始まる以前は、過去の人名抄出技術を使って検索可能な索引を作成するのに、1組の記録につき数年を要することがありました。ファミリーサーチの索引作成マネージャーを務めるマイケル・ジャドソンは、フリードマン銀行記録（銀行口座を開設した解放奴隷の合衆国記録）を索引化するのに11年かかったと述べています。しかし、現在はこれをわずか数か月で完了できると推測しています。

2006年以降、全世界のボランティアが10億以上の記録を索引化してきました。しかし、なすべき作業はまだたくさんあります。ユタ州グラナイトマウンテン記録保管庫には、さらに数十億の記録があります。また、世界各地の他の記録保管所にも記録があり、家族歴史部は月に約3,500万のペースでデジタル画像の写真撮影を行っています。

具体的な状況、具体的な祝福

大管長会はこう述べています。「会員は、ファミリーサーチ索引作成作業に携わるように勧められています。索引作成は家族歴史と神殿の業にとってきわめて重要です。」² 全世界の会員がこの勧告にこたえて、驚くべき祝福を受けています。



ウクライナの聖徒たちは、熱心に電子索引の作成作業を行い、東ヨーロッパにおける家族歴史の探求を促進しています。キエフのルデンコ家族は力強い模範を示しています。彼らとその子供たちは、名前を索引化できるように、犠牲を払ってインターネットの費用を支払っています。ルデンコ姉妹は、一日の家事の合間に索引作成ができるように、一家のノートパソコンを台所に置いています。片手に赤ん坊を抱きながら、もう片方の手で名前を入力します。16歳の息子と12歳の娘も定期的に索引作成を行います。また、一家は時折、家族の名前を調べるために役所の記録保管所を訪れます。ルデンコ家族は定期的に名前を神殿に提出し、時には週に数回神殿に参入してそれらの名前のために儀式を執行します。

ルデンコ姉妹は家族歴史活動によって受けた祝福についてこう語っています。「索引作成と家族歴史活動によって守られていると、わたしは信じています。わたしは祝福師の祝福の中で、この業を行えばわたしと子供たちは守られるという約束を受けています。子供たちの思いは清くなり、この世の悪い影響に耐えることができます。……〔子供たちは〕この業から神の力を受けています。」

多くの会員は、技能や生活状況に関係なく、索引作成に

よって有意義な奉仕の機会を受けていることに気づいています。アメリカ合衆国ユタ州のマリンダ・ペリーは、24歳のときに自動車事故に遭い、首から下に麻痺が残りました。ペリー姉妹はこの新しい生活様式に合わせてどのような奉仕ができるかについて祈りました。ステーキ扶助協会会長会のレイリーン・アンダーソン姉妹が彼女を訪ねて、索引作成の方法を教えたとき、ペリー姉妹は祈りの答えを受けたのです。ペリー姉妹は今、テープで手に棒をはり付け、それを動かして入力できるようにして、毎日パソコンの前で時間を過ごしています。そして、1日に1バッチの名前を索引化しています。

「これまでのように自分のことばかり考えるのではなく、ほかの人々に奉仕することに心を向けるようになりました。わたしは主を愛しています。そして、索引作成を通してほかの人々に主の祝福をもたらせることを喜んでいます」と、ペリー姉妹は言います。

家族歴史に関するプレゼンテーションを聞きながら、イングランド・チョーリーのデビッド・ピックアップステーキ会長は、ステーキの会員たちが神殿で礼拝したいという望みを増すのに索引作成が役立つという気持ちを感じました。しかし、平凡なデータ入力のように見えるものが、どうして人々を神殿



に導くのだろうかと思惑に思いました。

索引作成を実際に行ってみた結果、彼は自分の生活にエリヤの霊がさらに力強くもたらされることを知ったのです。彼にとって、索引作成は「精錬」の活動となりました。「索引作成を行うと、索引化する名前だけでなく、あなた自身の家族ネームについても考えるようになります」と彼は語ります。

ピックアップ会長はステーキの会員に、家族歴史活動に参加する一つの方法として索引作成を活用するように勧めました。間もなく、彼とステーキの他の指導者たちは、神殿推薦状を受けるにふさわしい人の数と、聖餐会の出席者数が著しく増加したことに気づきました。索引作成に参加した会員たちが、自分の家族ネームを神殿に持って行きたいという望みを強くしていることに気づいたのです。

17歳のマッケンジー・Hは、ピックアップ会長の勧めを心に留めて、索引作成を始めました。彼女はさらに、自分のきょうだいや両親、祖父母がこの奉仕に携わるのを助けました。2年足らずで、マッケンジーは44,000以上の名前を索引化しました。さらに重要なことは、マッケンジーと家族が自分たちの家族の名前を探し出し、神殿に持って行き、救いの儀式に参加するようにという促しを感じたことでした。

索引作成は、チョーリースタークの会員たちの生活にさらに強い御霊をもたらし、彼らが家族ネームを神殿に持って行くために必要な手段を提供するのを助けました。ピックアップ会長はこう言っています。「索引作成を行うのに、神殿に参入するふさわしさは必須ではありません。しかし、索引作成を行えば、その人自身が精錬されて、神殿にふさわしくなりたい、神殿に行きたいと思うようになり、先祖のために儀式を行いたくなるのです。……わたしは身をもって実感したので、このことを知っています。」

索引作成はすべての人に役立つ

主は、「見よ、わたしは、時が来ればわたしの業を速やかに行う」と約束されました（教義と聖約88：73）。索引作成は、主がその約束を果たされる一つの方法です。人々は自分の先祖を見つけることができ、ほかの人々の先祖を見つけることはその人々に任せます。しかし、索引作成は、すべての人の家族歴史の探求を促し、加速させます。「主は名前を見つける方法を大幅に改善する科学技術を与えてくださいました。皆さんは今、自分の家族歴史に取り組んでいるだけではありません。索引作成は、天の御父のすべての子供たちを助けるために力を結集する作業です」と、ジャドソン兄弟は語っています。■

単なるデータ入力以上のもの

最初は、索引作成は一見、地道なデータ入力のように見えるかもしれませんが。しかし、経験のある索引作成者は、それがとばりの両側の人々に祝福をもたらす霊的な作業であるとしばしば証します。

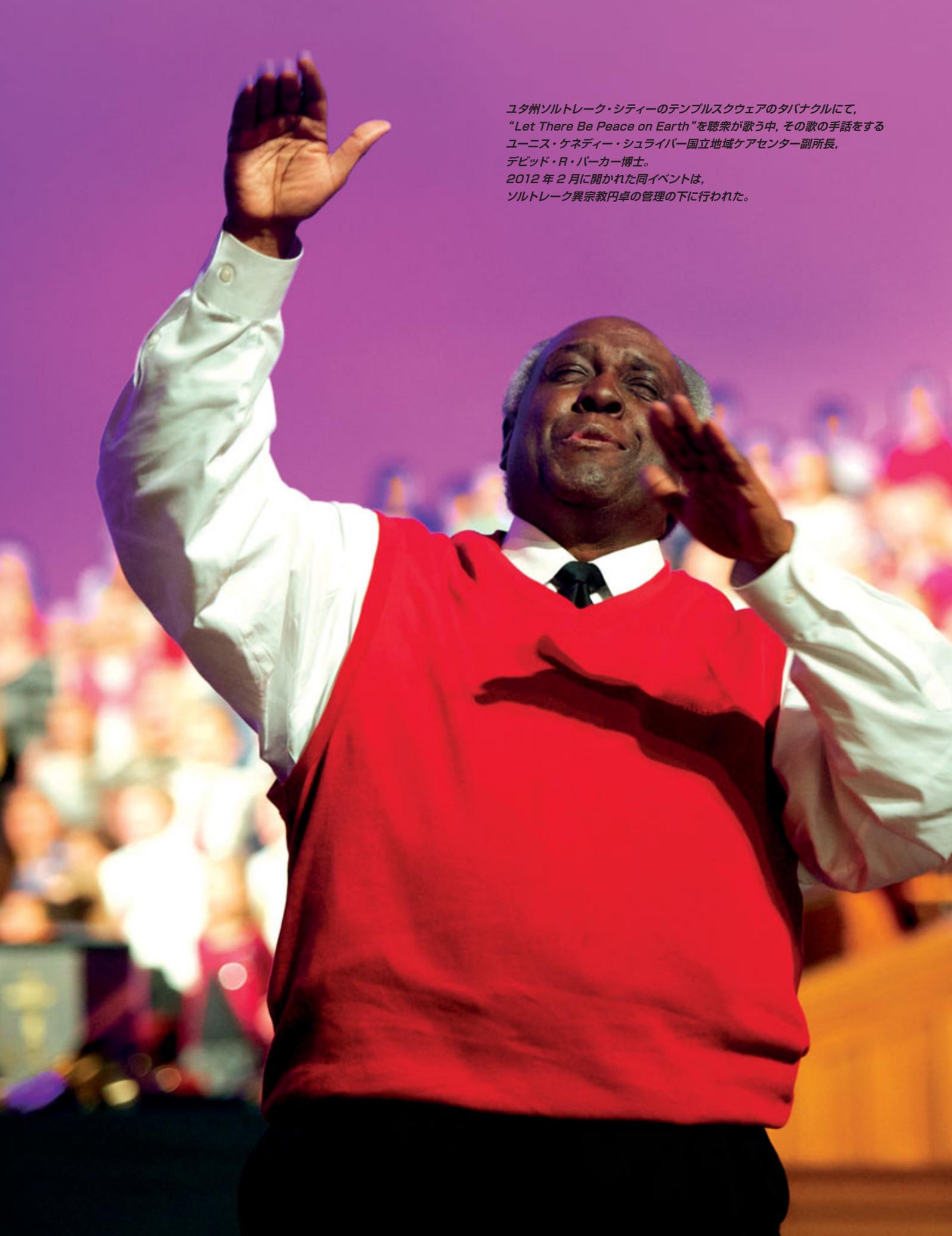
以下は、索引作成を霊的に満たされる経験とするのに役立つ幾つかの提案です。

1. 祈りによって始める。エリヤの霊を感じてあなたの心が先祖に向かうように、具体的な祈りをささげるとよいでしょう。
2. 御霊を損なう可能性のあるテレビや音楽など、注意をそらすものを避ける。
3. 家族や友人と一緒に索引作成を行う。読み取るのが難しい文字を読むのに助けが得られるだけでなく、自分たちの家族歴史について話し合うきっかけともなります。
4. あなたが索引化を行う名前は、すべて実在の個人で、生存している子孫がその人を見つけて、神殿で身代わりの儀式を行うことができることを覚えておく。
5. 主が助けてくださるということを心に留める。あなたは、索引作成で経験する可能性のあるどのような問題も、救い主によって克服することができます（2コリント12：9－10参照）。

索引作成は、オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語およびスウェーデン語でできます。詳しくは、familysearch.org/indexing をご覧ください。

注

1. デビッド・A・ベドナー「子孫の心は向かうであろう」『リアホナ』2011年11月号、26
2. 大管長会の手紙、2012年2月29日付

A man with grey hair, wearing a white long-sleeved shirt and a bright red vest, is performing sign language on a stage. He has his right hand raised high and his left hand near his chest. The background is a blurred crowd of people, suggesting a large public event. The lighting is warm, with a mix of purple and orange tones.

ユタ州ソルトレーク・シティーのデンプルスクウェアのタバナクルにて、
“Let There Be Peace on Earth”を聴衆が歌う中、その歌の手話をする
ユニス・ケネディー・シュライバー国立地域ケアセンター副所長、
デビッド・R・パーカー博士。
2012年2月に開かれた同イベントは、
ソルトレーク異宗教円卓の管理の下に行われた。

他宗教の人々 との交わり

を通じて、より良い聖徒となる

わたしたちがほかの宗教の人々とともに奉仕するとき、
地域社会を発展させて周囲とより良い関係を築くだけでなく、
わたしたち自身もより良い弟子となることができます。

ベッツィ・バンデンバーク

教 教会の指導者は、宗教的な所属に関係なく、正直な心で奉仕や道徳的な問題に取り組む活動に参加するよう、度々会員に呼びかけています。そして、教会の指導者が良い模範となることがよくあります。最近、ディーター・F・ウークトドルフ管長と妻のハリエット姉妹は、カトリック地域事業団体（CCS）から2012年度人道支援賞を受けました。ウークトドルフ管長は受賞について、ユーモアを交えてこう述べました。「元ルーテル派教徒で今は熱心なモルモンである二人のドイツ人が、アメリカ合衆国のカトリック教会から栄誉ある賞を頂きました。」¹

世界各地の教会員は、他宗教の人々とともに肩を並べて奉仕するという呼びかけに非常によくこたえてきました。末日聖徒のワードが地域の菜園を育てたり、道徳的な価値観に関する異宗教間の会議を開いたり、ほかの教会の会員とともに地域の清掃活動を行ったりしたという記事を見て、感動を覚えました。

ほかの宗教の人々とともに奉仕することについて、十二使徒定員会のクエンティン・L・クック長老の勧めが正しいことを知りました。すなわち、敬意と真心をもって他宗教の人々と奉仕することは、地域社会を発展させるだけでなく、教会全体としても、個々の会員としても、神とその子供たちへの愛を深めることになるのです。²

世の中をより良くする

数年前、長老派教会の牧師がわたしの近所に引っ越して来ました。彼女は自分の教会の信者だけではなく、すべての隣人に奉仕することを望んでいました。末日聖徒が大部分を占める地域で、友好的な態度を示し、助けを申し出て、近隣住民の交流パーティーを開いて手を差し伸べていくうちに、ワードの会員も彼女の教会の奉仕活動に参加するようになりました。この牧師と様々な宗教の近隣住民が力を合わせて募金活動を



ホラデイ・マターズ（アメリカ合衆国、ユタ州、ホラデイ市）は、あらゆる宗教または宗教を持たない人々を歓迎し、地域のプロジェクトや活動に招き入れるために組織された。写真に写っているのは、様々な宗派の女性から成る設立者たち。

行い、高額な医療費を抱えていた末日聖徒の家族にかなりの支援を行いました。

使徒のオーソン・F・ホイットニー（1855 - 1931年）はこのように述べています。「神は御自分の偉大で驚くべき業を成し遂げるために、一つ以上の民をお使いになります。……この業は一つの民が行うには、途方もなく広大で、あまりにも骨の折れるものなのです。」³ 善良な人々が団結すると、大いなることが成し遂げられます。近所に住む牧師の努力が、地域の異宗教間委員会の結成につながり、ステーキ扶助協会とともに女性の大会を開いて難民支援団体へ寄贈する衛生キットと書物を提供するようになりました。その後も、異宗教間のつながりにより、ほかのある教会が大きな難民グループに食事を提供する際にステーキの会員が手伝ったり、別の教会がホームレスシェルターで奉仕する際にボランティアが足りなかったときはステーキの会員が助けたりしました。

「わたしたちにはほかの教会や組織と協力して働く……責任があります」とトーマス・S・モンソン大管長は会員に向けて語っています。⁴ 人々に手を差し伸べる活動は、人道支援活動の枠を越えて、世界に祝福をもたらしてきました。アメリカ合衆国のキリスト教指導者の前で行った講演の中で、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、ブリガム・ヤング大学で開催された末日聖徒と福音主義派教会との一連の対話について述べました。⁵ これらの会議から得た一つの成果は、ある著名な神学者が、自分の宗派の幾人かがモルモン教会に対して誤った認識をしていたと謝罪したことです。⁶ このような宗派間の架け橋を築くことについて、ホランド長老は「混乱する現代にあって、これは神聖な出来事の一つだと思わずにはいられません」⁷と話しています。



2011年12月、末日聖徒イエス・キリスト教会の子供たちとともにクリスマス・プログラムを公演した、合衆国ニュージャージー州にある聖母マリア無原罪懐胎カトリック教会の子供たち。同コンサートでは地元の食糧貯蔵施設に食糧を集めた。

より良い関係を築く

ほかの宗教の人々とともに奉仕する際に、一定の指針に従うことにより、さらに意義深い交わりを持ち、人の感情を害さないようにすることができます。以前、ある大都市に住んでいたとき、一般の人が参加できる、地元の教会の家庭教師プログラムにボランティアの志願をしました。ところが、わたしが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることが担当者に分かったら、参加させてもらえませんでした。この経験から、人が信じる宗教（あるいは無宗教であるか）に関係なく、あらゆる人の貢献を尊重するべきであると強く感じました。教会に関心があって学んでみたいという人には、喜んで力になります。しかし、わたしたち末日聖徒は奉仕を受ける人やとともに奉仕する人の改宗を求めず、隣人を愛し、裸でいる人に衣服を着せ、空腹な人に食べ物を提供し、獄にいる人を訪れる（マタイ 25:34 - 36）というイエスの教えを真摯に受け止めるべきこともよく知っています。誠実で敬意に満ちた宗教間の交わりをしていれば、わたしたちを含めたどのような宗教団体に対しても、その信条を否定させることは決して



確信しています。熱心に働くこと以上に、兄弟愛と純粋な動機が奉仕活動をいっそう押し進めるのです。⁸

ある宗教研究大会で話した末日聖徒は、ほかの宗教の人々とつながりを作ると、教会外の人々がわたしたちについてよりよく理解する助けになると述べています。⁹ 末日聖徒ではない別の学者は、アメリカの有名大学でモルモン教に関するセミナーを教えています。この学者が発見したことは、学生たちがこの教会について学びたい理由は「基本的に……モルモン教がカルトであると教えられて育ったものの、モルモンの友達や同僚との交わりから、カルトという定義が当てはまらないと思ったからでした。」¹⁰

より良い人になる

ほかの宗教の人々とともに奉仕することは、わたしたちを理解してもらうことに役立つだけでなく、わたしたちも彼らから学んだり、神が「人を偏り見ない者」であられるという理解を深めたりするきっかけにもなります（教義と聖約1:35）。神は、神の子供たちの生活を改善しようと努力する、あらゆる宗教と文化の善良な人々を助けられます。

ないでしょう。むしろ、参加する人に「いかなる教会とも争ってはならない」（教義と聖約18:20）、「慈愛のきずなを……身にまといなさい」（教義と聖約88:125）と勧めるのです。

もう一つの役立つ指針は、多くの末日聖徒が住んでいる地域の賢明なステーク指導者から学びました。ほかの宗教の人々と奉仕をするときは、決定権や主導権で上に立って「手中に収める」のではなく、評議会を通して働き、「すべての人が等しい特権を持てるように」するよう助言しました（教義と聖約88:122）。ほかの教会とともに働く経験が豊富だったこの指導者は、良い関係を築くように会員に勧めました。末日聖徒と一緒に活動をしたことのある人の中に、末日聖徒が勤勉で好感を持てる人たちであると感じたものの、良い友となることよりも作業を終わらせることに関心が強いと感じたという声を聞いたからです。

地域社会や教育関連活動での経験から、様々な宗教の人々が価値ある使命のために一致するときに強い御霊がある^{みたま}とわたしは

教義の要点

- 神はあらゆる宗教や文化の、正直な人々を通して、地上における御自分の業を進められる。
- 信仰を異にする人々と協力して善を行うことにより、単独のときよりも多くの善いことを成し遂げることができる。
- 敬意をもって友好的な態度でほかの宗教の人々と働くことにより、誤解を減らし、兄弟愛や姉妹愛をはぐくみ、すべての人が御父に近づくことができる。

2013年3月、ブラジル・サンパウロで開かれた異宗教会議で、信教の自由の擁護について話し合う参加者たち。



下、左から——
2010年2月、ソルトレーク
タバナクルで開催された
異宗教音楽トリビュートで
公演するバラタナティアムの
ダンサー。公演を楽しむ観客。
モルモンメッセージビデオで、
性的純潔について話し合う
様々な宗教のヤングアダルト。
合衆国テキサス州
ヒューストンで開かれた
年次異宗教チャリティー・
キルティング大会で、
助けが必要な家庭のために
キルトを作る参加者。

ほかの宗教の善良な人々を認めることは、
謙遜けんそんさを保つ助けになります。それは、イエス
が霊的な高慢を非難されたパリサイ人（マタイ
23章参照）やアルマ書に描かれている排他
的で尊大なゾーラム人（アルマ31章参照）と
は対極をなすものです。ほかの宗教の人々が
持つ善良さを受け入れることによって、わたし
たちはより良い民になることができるのです。

わたしたちの愛は、家族の身近な輪から広
がって、自分の友人だけではなく、究極的に
は隣人、あるいは敵対する人々さえも包み込
むことができます。第二次世界大戦後の日本
で、アメリカ軍に服役していたある教会員は、
日本人をうらむ気持ちと苦闘したことを語りま
した。地元の日本人が神社に招き入れてくれた
ときのことについてこう述べています。「日本
人の心がわたしの琴線に触れ、日本人に対す
る感情が大きく変わるのを感じました。不快
感は薄れていきました。……あの神社で起き
たこと、そして日本の人々に対する感情の驚く
べき変化について考えました。」¹¹

同様に、ほかの宗教の人々を真心からわた
したちの輪の中に受け入れるとき、その人も似
たような心の変化を経験することでしょう。

ブリガム・ヤング大学を卒業した福音主義派
のあるキリスト教徒は、大学での経験につい
て記事を書き、当初は末日聖徒の学生に対し
て心を閉ざしていたと述べました。しかし、よ
うやく意義深い友情を築いた後、「末日聖徒
が強調している、神と人との距離の近さ」を
理解するようになり、次のようにつづりました。
「神がすべてを超越する存在であると信じるあ
まり、神が自分の近くにおられるという考えを
捨てていたことに気づき始めました。この認
識はわたしに重大な影響を及ぼしました。」¹²

キリスト教指導者に対する講演の中で、ホラ
ンド長老は「ほかの宗教の人について新しい
ことを知る際にリスクがある」ことを認めて、
このように述べました。「新しい考え方は必ず
古い物の見方に影響を与えますから、自分た
ちの世界観を見直し、もう一度整理して立て
直すことは避けられません。」¹³ ほかの宗教の
人々と友情を築くに当たり、わたしはしばしば
それぞれの違いを分析し、教義的な違いと
文化的な違いを区別しようとすると同時に、
その人の持つ、すべての徳高く、美しい面を認め
ようと努めています。時として危険が伴う感じ
がしますが、そのような努力は、常にする価値





2012年2月、ソルトレークタバナクルで講演する
ソルトレーク異宗教円卓会議のアラン・バックマン会長。



合衆国ワシントン州スポケーンでの異文化交流の夕食会「フェース・フィースト」に出席する3人の末日聖徒の女性たち。同3人とほかの参加者は、地元のイスラム教モスク、シーク教寺院、長老派教会を訪問した。

があります。自分の物の考え方を再構築する中で、浅い文化的偏見を捨て、より深い福音の神髄に近づいていることが分かります。

幾つかの末日聖徒のグループが、牧師であるわたしの友人を招いて、「宗教的な違いを越えて隣人を愛する」というテーマで話してもらいました。彼女はその会に出席した人たちからとても快く受け入れられたことを実感しました。その後、お返しとして、同じテーマで様々な会衆に話をするためにわたしを含む数人の末日聖徒を招いてくれました。集会の後、出席した人々がわたしを取り囲み、話しかけたり、抱きしめたりしてくれました。互いへの愛と理解の気持ちから、涙する人さえいました。こうした経験から、ホランド長老の話の結びの言葉が真実であることを知ったのです。

「人々の肌の色や民族、交友範囲、教会、シナゴーク、モスク、信念、信条を超え、最善の努力を払って同じ神の子供という彼らの真の姿を見ようとするならば、わたしたちの心には好ましい変化、価値ある変化が訪れるでしょう。それによって、わたしたちは全人類の御父である神にさらに近づくのです。」¹⁴ ■

著者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

注

1. デイター・F・ウークトドルフ、マージョリー・コーテスの記事“Catholic Community Services honors Uchtdorfs, Eccles as humanitarians of the year”より、2012年11月7日、deseretnews.com
2. クエンティン・L・クック、“Partnering with Our Friends from Other Faiths” 2010年8月9日、patheos.com 参照
3. オーソン・F・ホイットニー、Conference Report、1928年4月号、59
4. トーマス・S・モンソン、“The Mormon Ethic of Civility” 2009年10月16日より抜粋、mormonnewsroom.org
5. ジェフリー・R・ホランド「キリストの大義のために団結する」『リアホナ』2012年8月号、24-26 参照
6. ジョセフ・ウォーカー、“Evangelical leader says LDS Church is not a cult” 2011年10月10日、deseretnews.com
7. ジェフリー・R・ホランド「団結する」『リアホナ』、24
8. マイケル・A・ネイダー、“The Voice of the People” *Ensign*、2012年10月号、38-40 参照
9. プレア・D・ホッジズ、“Mormons, Methodists meet to consider similarities, compare cultures, theology, music” 2012年2月25日、deseretnews.com 参照
10. ジョセフ・ウォーカー、“University of Virginia Chair in Mormon studies named for Richard L. Bushman” 2012年10月12日、deseretnews.com
11. フェロン・A・オルソン、“Forgiveness at Wakayama” *Ensign*、2011年12月号、57
12. サラ・テイラー、“An Evangelical Student’s Experience at BYU” *Meridian Magazine*、lds.org より
13. ジェフリー・R・ホランド「団結する」『リアホナ』29
14. ジェフリー・R・ホランド「団結する」『リアホナ』29

ムズングから 友へ

シニア宣教師の飾らない奉仕が心に深い印象を残しました。

教会機関誌

デビッド・ディクソン

ムズングが木の上に？ ムズングが木の上で何を
しているのだ？ こんなに速く枝を切っていく、
彼の使うあの道具は何だ？

ウガンダ人たちはこのような疑問を思い巡らしながら、
外国人（ムズング）が電池式電動のこぎりを使って、日よけ
の大きな木から枯れた枝を切り落とす姿を眺めていました。
地元の人々にとって、その工具自体が驚くべきものでした。
多くの人はそのようなものをこれまで見たこともなかった
からです。

さらに驚きだったのは、ムズング自身でした。アメリカ合
衆国ユタ州から来たシニア宣教師ローランド・ハリス長老
は、高い所に伸びた枯れ枝を次から次へと切っていました。
下から眺めている人々は、ウガンダ人のだれかのために外国
人がそのような骨折りをすることに驚いたのです。

ハリス長老の飾らない奉仕は、最終的には、教会や教会員
と一切かわりを持ちたくないと思っていたある人と友情を
築ききっかけになったのです。

ゴドフレーと知り合う

ローランド・ハリス長老とジャネット・ハリス姉妹はウガンダ・
カンパラ伝道部で23か月間の奉仕をしている最中でした。
看護師の資格を持つハリス姉妹は、宣教師の医療アドバイザーに
召されていました。退職した施工管理技士であり、この世では直せない物
はほとんどないというハリス長老は、教会の施設や伝道部の車両の
手入れをしていました。

ウガンダに到着後間もなく、ハリス長老と姉妹はメアリーと
いう地元の教会員を雇って、家の掃除を手伝ってもらいました。

メアリーは3年前にバプテスマを受けていました。「わたした
ちはメアリーが大好きになりました」とハリス姉妹は言います。
「メアリーはウガンダの風習をいろいろ教えてくれました。」



メアリーを知れば知るほど、友情は深まっていきました。
ハリス夫妻は程なく、メアリーの夫ゴドフレーのことを聞きま
した。ゴドフレーは善良な男性でしたが、教会員、とりわけ
宣教師とは距離を置いていました。「宣教師を自宅に入れ
ようとしませんでした」とハリス姉妹は説明します。しかし
メアリーはそれでも、ゴドフレーに夫妻と会ってほしいと思
いました。

メアリーは自宅に立ち寄るようハリス夫妻を誘いました。
「何も期待はしていませんでした」とハリス姉妹は説明し
ます。「メアリーが今やわたしたちの愛する友人となった
こと、そしてご家族と知り合いたかったことをゴドフレーに
伝えました。」ゴドフレーは夫妻と雑談はしたものの、ただ
の知り合い以上に親しくなりたいとは思いませんでした。

ところが、ハリス長老が電動工具とはしごを持って来て、
奉仕を申し出たその日、すべてが一変しました。

転機

ゴドフレーとメアリーの家は丈の高い日よけの木に囲まれ
ていて、枯れ枝や伸びすぎた大枝が屋根を危険なほどに
覆っていました。

ハリス長老はすぐに作業を始めました。木の上で4時間
かけて、直径が最大で25センチあるような枝を次々に切り
落としました。刈り込みが必要なのは明らかでした。「少なく
とも地上6メートルの高さまでよじ登っていました」とハリス
長老は言います。通りかかる人々は目を疑いました。

もちろんゴドフレーも驚きました。「何度もお礼を言って



きました」とハリス姉妹は語ります。
剪定せんていのような比較的単純な作業で
さえ、大きな危険を伴いかねま
せん。「メアリーたちには医療
を受けるお金などありません」
とハリス姉妹は説明します。
例えばもし木から落ちて腕や足
をけがしたとしても、自然治癒に頼るしかない
でしょう。

剪定して地面に積んだ大きな枝の山は、大切
な友情の土台を作りました。「その日以来、ゴド
フレーは出て来てあいさつしてくれるようになり
ました」とハリス長老は言います。ゴドフレーと
メアリーは、ほかの教会員が家に来るのも歓迎
するようになりました。

ナイル川を渡る

月日がたつにつれ、ハリス長老と姉妹はゴド
フレーとメアリーとさらに親しくなりました。最
終的には、伝道期間を半分終えたころ予期せ
ぬ悲劇に見舞われた際、メアリーたちとの友情
はハリス夫妻にとって力と支えになりました。
ハリス夫妻は、息子のブラッドが高速道路の事
故で亡くなったと知らされたのです。

メアリーとゴドフレーはこのことを知るとすぐ
に、いちばん良い服を着て、愛する友を支える
ために危険な旅に出かけました。

ウガンダでは車を持っている人はほとんどいま
せん。歩くか、タクシーに乗ります。最もよく利用
されるタクシーはボダボダというオートバイで、

一度に6人もの客を乗せることもしばしばです。
「暗闇くらやみの中でボダボダに乗るのは危険です」
とハリス姉妹は説明します。「メアリーたちは
暗闇の中でボダボダに乗ってナイル川を渡った
のです。」

大きな出費をして真夜中に危険な道をやって
来たゴドフレーとメアリーは「悲しむ者とともに
悲しみ」「慰めの要る者を慰める」ために来
ました(モーサヤ18:9)。思いやりと愛がそっ
くり戻ってきた夜でした。メアリーとゴドフレー
が奉仕をする側になったのです。「ほんとうに
感動しました」とハリス姉妹は言います。メア
リーは皆でひざまずいて祈ろうと提案しました。
ゴドフレーはためらうことなく加わりました。

ハリス長老と姉妹はアメリカ合衆国カリフォル
ニア州に行き、ブラッドの葬儀に参列しま
した。そして、伝道を最後まで遂行するために
ウガンダに戻りました。ユタに帰還した今でも、
ローランド・ハリスと妻ジャネットは、メアリーと
ゴドフレーと親しいままでいます。

奉仕はほかの方法では開けられない扉を
開くことができるかぎ鍵です。トーマス・S・モンソン
大管長はこう教えています。「無私の奉仕が利
己主義を消し去るとき、神の力によって神の目的
が遂げられます。」(「奉仕する意志とふさわしさ」
『リアホナ』2012年5月号, 68)■





輝く希望の大陸

アフリカ



教会機関誌
リチャード・M・ロムニー

アフリカや
マダガスカルの
末日聖徒の
信仰と従順は、
世界中の教会員の
模範です。

「アフリカの人々を愛することは簡単です。」¹
シエラレオネのフリータウンを訪れていた
十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド
長老はこのような語りました。ホランド長老はリベリア
やガーナを含めた地域を訪問する割り当てを果たして
いる最中でした。

福音を愛する心がもたらすアフリカの末日聖徒の
信仰と従順は、世界中のすべての教会員の模範となっ
ているとホランド長老は述べました。



バプテスマの聖約は
多くの祝福をもたらす扉を開けます。
信仰をもって福音を研究することも同じです。



ホランド長老はこう語りました。感銘を受けるのは、「福音が彼らにとってどれほどの意味を持っているかを知り、福音を実践し愛する姿を目にし、^{じゅうぶん} 十分の一や奉仕や神殿参入への忠実さを理解することです。わたしは神殿が最高の目標だと思っています。また、彼らが教会の中で子供を育て、息子や娘を伝道に送り出している姿を見ることです。それは忠実さのすばらしい証^{あかし}です。」²

目の前で

ホランド長老は、(1970年にステークが組織された)南アフリカを除いて、アフリカ大陸に教会が築かれてから30年もたっていないことに言及しました。教会はアフリカで「今いる会員の目の前で、あっという間に誕生しました。」そして、「アフリカは主の栄光、回復の驚くべき業と奇跡が、文字どおり目の前で発展するのを見ることができる特別な場所の一つです。」³

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008年)とともにガーナのアクラを訪れて、大管長がそこに神殿が建つことを発表したときのことをいつまでも忘れないでしょう、とホランド長老は言いました。「[人々は]立ち上がったか歓声を上げたり、涙を流したり踊ったり、抱き合ったり、泣いたりしました。ある意味で、その精神は今も続いています。それこそ

わたしがアフリカの人々をいとおしく思う理由です。福音に対する彼らの果てしない喜びです。たいいていの人は物質的なものはほとんど持たずに生活していますが、福音を手に入れたとき、喜んで応じました。……今でもそうです。今日に至るまでそのようにしています。」⁴

成就した預言

アフリカで割り当てを果たしたほかの預言者や使徒は、アフリカ大陸について、主の預言が文字どおり成就しつつある地であると語っています。

モザンビークとナイジェリアの教会員を訪れた後、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老はこう語りました。「アフリカの人々は親切で忍耐強いです。収入は多くなく、何かをするための経済的資源もないので、純粋に努力するしかありません。聖霊の促しを受けたら、それを果たすために何キロも何キロも何キロも歩いて、業を推し進めるのです。」⁵

スコット長老は、1999年に福音を宣べ伝えるためにモザンビークを奉獻したとき、会員はまだ40人しかおらず、南アフリカ・ヨハネスブルク伝道部の一部だったことに言及しました。2011年1月に2度目の訪問をしたとき、モザンビークの教会は2つの地方部と19の支部に5,000人以上の会員が国中から集まるほど発展していました。アンゴラ共和国を含むモザンビーク・マプト伝道部の拠点にもなっています。⁶

歴史は浅くも、育ち盛り

「この地では、教会の歴史は浅い

です。」⁷ 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老はマダガスカル、マラウイ、ケニアを訪れているときにこう述べました。「わたしたちは、主がこの大なるアフリカ大陸で業を進められ、……救いと昇栄の儀式を〔含めた〕真理、すなわち福音の光により、人々が祝福されるのを目にしています。」⁸ ネルソン長老は、アフリカの地元の教会指導者の強さにとりわけ感銘を受けたと言いました。「人々の生活に祝福をもたらすために時間と才能を主の業にささげる〔地元の〕指導者にどれほど感謝しているか、言い尽くすことができません。」⁹

ネルソン長老はアフリカやマダガスカルにおける教会とその地の人々の将来に対して「とても楽観的」です。なぜなら彼らの信仰は彼らが抱える困難よりも強いからです。マダガスカルで開かれた集会で次のように述べています。「皆さんは確かに神の子供、すなわち神と聖約を交わしたイスラエルの子孫であり、主イエス・キリストと永遠の父なる神とお会いして、御二方のみもとで〔皆さんの〕家族とともに住まう準備ができています。」¹⁰ ネルソン長老はさらにこう述べています。「この人々は大きな可能性を秘めています。信仰があります。主を愛しており、真の強さをもたらすすべての要素を備えているのです。」¹¹

ケニアのナイロビでインタビューを受け、ネルソン長老はこう話しています。「末日聖徒の礼拝堂があります。ナイロビにはステーキもあります。今日はステーキ大会がありました。人々と会って胸が躍りました。1,000人以上が集まり、〔彼らは実に〕敬虔で、





救い主をいつも覚えようと努力する会員たちは、
聖餐せいさんを取ることで強められ、更新かこうされます。



美しい聖歌隊と有能なステーク会長会、そして祝福師が壇上にいました。そのような発展を目にする喜びは言葉で言い表すことができません。」¹²

逆境にも負けず

チャレンジに直面していても、教会はアフリカで繁栄しているとホランド長老は言いました。長老はその例として、このように語りました。「コートジボワール〔アイボリーコースト〕で激しい内戦が起きていたとき、末日聖徒は……絶えず神殿に來ました。彼らを心からたたえます。驚嘆せずにはられません。」¹³

シエラレオネとリベリアの両国について、ホランド長老はこう述べました。「悲惨で、戦禍に荒れた、残忍な状況がごく最近まであったことは、福音が急激に受け入れられている理由の一つです。人々は望ましくない人生を味わったので、今、宣教師や会員の証を聞いて、人生はどのようなものになり得るか見えてきたのです。天は〔彼らの試練を〕祝福に変えることができ、彼らは政治的な混乱や内乱を克服しつつあるのです。」¹⁴

さらに、ホランド長老は、近年大変な時期があったにもかかわらず、ジンバブエにおいても教会が発展し続けていると指摘しました。「教会は開花しました。発展し、ステークや

伝道部ができました。アフリカ中でこのようなことが起きているのです。」¹⁵

福音を宣べ伝える

アフリカで教会が成功を取めている鍵の一つについて、ホランド長老は次のように語りました。「わたしたちは目立った、社会政治的な問題に立ち入りません。福音を宣べ伝えます。正義を重んじ、社会的な機会や公平さを重んじます。しかし、〔答えは福音にある〕と思っているので、福音を宣べ伝えるだけです。これはどの地域でもそうで、アフリカについても言えますが、人々が人生において洞察と祝福と光を受けると、突如としていろいろな変化が起こり始め、生活に祝福がもたらされるのです。」¹⁶

主の約束

ホランド長老は救い主の言葉を引用してこのように述べています。「あとの者は先になり、先の者はあとになるであらう。」(マタイ 20:16)

ホランド長老はこう語りました。「少なくともわたしたちが主の時刻表に添って実現できた早さについて言えば、ある意味では、福音がアフリカにもたらされるのは遅いです。しかしもちろん、主の時刻表どおりだったと間違いなく断言できます。アフリカの人々のもとに伝道部や宣教師、神権の祝福などが届き始めたのは比較的最近にすぎません。大きな大陸ですので、まだ先は長いです。しかし、今アフリカで目にする発展は、主の約束の成就の一部だと信じています。アフリカの末日聖徒の信仰は明らかです。彼らは絶えず前進しています。福音を

受け入れて生活で実践するという、やりがいのある業に取り組んでいます。」¹⁷



注

1. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用, www.lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/emerging-with-faith-in-africa
2. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
3. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
4. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
5. リチャード・G・スコットの言葉, “Mormons in Africa: A Bright Land of Hope” で引用, mormonnewsroom.org/article/mormons-africa-bright-land-hope
6. “‘Jesus Christ Lives’ Elder Scott Testifies in Mozambique” 参照, lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/jesus-christ-lives-elder-scott-testifies-in-mozambique
7. ラッセル・M・ネルソンの言葉, ビデオ “Learn of the Savior, Saints in Madagascar and Malawi Are Told” より抜粋, lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/learn-of-the-savior-saints-in-madagascar-and-malawi-are-told
8. ラッセル・M・ネルソンの言葉, “Elder Nelson Completes Trip to Africa in Kenya” で引用, lds.org/church/news/elder-nelson-completes-trip-to-africa-in-kenya
9. ラッセル・M・ネルソンの言葉, ヘザー・ホイットル・リグレーのビデオ “Elder Nelson Visits Madagascar, Dedicates Malawi” 2011年10月28日より抜粋, lds.org/church/news/elder-nelson-visits-madagascar-dedicating-malawi
10. ラッセル・M・ネルソンの言葉, ビデオ “Learn of the Savior, Saints in Madagascar and Malawi Are Told” より抜粋
11. ラッセル・M・ネルソンの言葉, ビデオ “Elder Nelson Visits Madagascar, Dedicates Malawi” より抜粋
12. ラッセル・M・ネルソンの言葉, ビデオ “Family Success Comes from Following the Savior” より抜粋, lds.org/prophets-and-apostles/unto-all-the-world/family-success-comes-from-following-the-savior
13. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
14. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
15. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
16. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用
17. ジェフリー・R・ホランドの言葉, “Emerging with Faith in Africa” で引用



アフリカ南東地域およびアフリカ西地域*

会員数: 381,417

ステーク数: 70

ワード数: 508

伝道部数: 22

地方部数: 60

支部数: 646

本部: 南アフリカのヨハネスブルク
およびガーナのアクラ

*2013年4月現在

神殿

儀式が施されている神殿

ガーナ・アクラ, 2005年8月7日に奉献

ナイジェリア・アバ, 2004年1月11日に奉献

南アフリカ・ヨハネスブルク,

1985年8月24-25日に奉献

建設が発表された神殿

南アフリカ・ダーバン

コンゴ民主共和国キンシャサ

最も偉大な奇跡

9月のある晴れた日、末娘のエリカが交通事故に遭いました。かなりの重傷で、すぐにヘリコプターで病院に運ばれました。そして何時間にもわたる緊急手術の末に、わたしたちのもとに届いたのは最悪の知らせでした。あの美しく快活だった17歳の娘が亡くなったのです。

それから数か月、わたしたちは苦しみました。末娘の誕生日と感謝祭を堪え忍び、初めて迎える末娘のいないクリスマスはどうやり過ごせばよいのか、考えあぐねていました。人からはクリスマス休暇はつらいものだと言われましたが、どんなに教えてもらっていても何の役にも立ちませんでした。

それに、突き上げてくる悲しみと絶望感の中で、集まって幸せそうに楽しく祝っているよその家族を、わたしはうらやみました。やりきれない気持ちで、こう自分に問いかけました。「何でわたしたちがこんな目に遭わなければならないの。人はよく奇跡の話をするけれど、なぜわたしたちにはそれが起こらなかったの。」

絶望の淵にいたとき、わたしは「ベツレヘムでのクリスマス」という活動をワードでしたときのことを思い出しました。ワードの会員が、イエスがお生まれになったころのような服装をして来たのです。当時4歳だったエリカは、お下がりの長く白いドレスを着て頭にスカーフを巻いていました。その晩の山場は、大量のわらを入れ、かいばおけを置いて作った馬小屋で行ったキリストの降誕劇でした。生まれたばかりの赤ん坊を抱いた若い夫婦が、マリヤとヨセフ、赤ん坊のイエスにふんしました。

わたしたちがこの降誕場面

の周りに集まったとき、自分の横にエリカがいないことにわたしは気がつきました。おろおろしていると、白いドレスが馬小屋の近くに見えました。無事が分かった途端、今度は娘が劇のじまになるのではないかと心配になりました。呼び戻そうとしたのですがやめて、娘がかいばおけに近づいて行くのを見守りました。

エリカはマリヤの隣に静かにひざまずくと、許可を求めるかのようにマリヤの顔を見上げました。そして、眠っている赤ん坊に手を伸ばして優しくなでたのです。わたし以外の人も気づいていました。皆すぐにしんとなって、エリカが赤ん坊のすぐそばにひざまずくのを見守りました。この赤ん坊はエリカにとってはほんとうに幼子キリストなのだ分かったと、そこにいた人たちは和やかな気持ちになりました。

悲しんでいるときに、このクリスマスの記憶がよみがえって、娘が幼かったころの信仰あふれる行いを思い出し、

この赤ん坊はエリカにとってはほんとうに幼子キリストなのだ分かったと、そこにいた人たちは和やかな気持ちになりました。

平安と慰めを感じました。生と死についてはたくさんの疑問がありましたが、エリカを亡くすまではあまり真剣に考えませんでした。イエスの復活と十字架上の死について深く考えていると、マリヤが自分と重なって見えました。マリヤは生まれたばかりの息子イエスを愛していました。しかし、後に息子の苦しみと死を目の当たりにするという恐ろしい苦痛に耐えたのです。キリストは十字架上の苦しみを免れることはなく、マリヤもこの苦痛を免れることはありませんでした。

クリスマスには救い主のこの世における生涯の始まりを祝いますが、わたしにとってはもう、救い主の誕生が、その苦しみと死と復活、すなわち贖罪抜きでは語り得ないものになりました。救い主が死の縄目を断ってくださったので、エリカは死んでいなくなってしまうわけではないことが分かります。

これは感謝すべき奇跡です。史上最高の奇跡なのです。■

エレン・ネル
(アメリカ合衆国、ユタ州)



祈りの答え

クリスマス気分には浸ってはいられませんでした。高校3年生の12月のことです。大学への願書の提出と、ローレルクラスの最後のプロジェクトが目前に迫っていました。願書に書いて、しかもローレルクラスのプロジェクトにもなるようなボランティア活動はないだろうかと探していました。折よく生徒会の顧問の先生が友人のジェシカとわたしに、校内でおもちゃの寄付を募って地域の慈善団体に寄贈してくれないかと言ってきました。

作業のほとんどはプロジェクト委員会に任せました。委員会に頼んで、寄付されたおもちゃの数を示す大きな目盛りの付いた掲示板を作ってもらいました。宣伝はこれで十分だと思ったので、毎日昼休みの時間を使っておもちゃの寄付を募りました。しかし、生徒たちが寄付してくれたおもちゃは少なく、掲示板の目盛りは上がりませんでした。

おかしなことに、顧問の先生がおもちゃをいくつか取り分け始めました。どうするつもりなのかとジェシカとわたしは尋ねたところ、この学校に最近、癌と診断された教師がいるのだと話してくれました。治療を受けながら教壇に立っていたのですが、休職することに決めたそうです。年末の休暇が近づいているのに医療費の請求はかさむ一方で、家族はクリスマスのプレゼントどころではないだろうということでした。わたしたちは先生に頼まれて、取り分けたプレゼントを包みました。

わたしは心を動かされました。奉仕活動を自分のためになる手段としか見しておらず、人のためという考えがなかったのです。おもちゃ集めの目的をもう一つ増やし、病気の教師とその家族の

ための募金も始めました。

ジェシカとわたしは教室を回って、寄付を募る理由を説明しました。ものすごい反響でした。教師も職員も生徒も、その家族を助けるためにおもちゃやお金を寄付してくれたのです。おもちゃの数は瞬間に目標を超え、慈善団体を驚かせました。それに、その家族のための募金も1,000ドル以上集まったのです。

寄付してもらったり買って来たりしたプレゼントを丁寧に包みながら、今受けている奉仕の証は、わたしたちが贈ろうとしているプレゼントと同じくらい素晴らしいものなのだということに気づきました。戸口に匿名でプレゼントを置き、その家族がそれを見つげるところを

プレゼントを包みながら、今受けている奉仕の証は、わたしたちが贈ろうとしているプレゼントと同じくらい素晴らしいものなのだということに気づきました。

こっそり見詰めていたときの心の高ぶりは、言い表すことができません。

数か月後、ジェシカとわたしは奉仕活動についてセミナーで教えるよう頼まれました。病気の教師の名前は伏せて、自分たちのしたことを説明しました。すると、一人の女の子が手を挙げて立ち上がったのです。涙をぼろぼろとこぼしながら話してくれました。病気の教師は、その女の子のおじだったのです。わたしたちの奉仕が彼にとってどんなにありがたかったかを説明してくれました。それは彼の祈りの答えだったそうです。

年末休暇に集まって心のこもった奉仕をし、喜んでもらったことが分かって、大きな喜びに包まれました。■

リンセイ・レビット
(アメリカ合衆国、ネバダ州)



わたし、できます！

クリスマスのある晩のことです。雪が地面に厚く積もっていました。この数か月間、同僚とわたしは寒いドイツの天候をもとせずにドアをたたき、モルモン書を手渡してきました。第二次世界大戦終結から15年たったにもかかわらず、多くのドイツ人はアメリカ人を警戒していました。

その夜、インゲボルク・ビエンムラーはバプテスマを受けることになりました。長い時間バスに乗って合衆国空軍基地に向かう間、彼女はほとんど口を利きませんでした。悩んでいるのがわたしにも伝わってきました。

バスが停留所に近づくと、インゲボルクは振り返ってこう言いました。「わた

しにとってこれがどんなに大変なことか分かりますか。大戦で夫は連合軍に殺されました。ほかの家族の者たちも空襲で死んだのです。」

彼女は自分の足に触るとこう言いました。「わたしも爆弾の金属片が足に刺さりました。この傷は絶対に治りません。基地に入れるかどうか、自分にも分かりません。」

彼女の言葉を黙ってかみしめていると、バスが停留所に着きました。インゲボルクは身じろぎもせず座っています。わたしの鼓動は強まりました。怖くなって彼女の決意が揺らぐことがありませんように、と祈りました。

すると彼女は席を立ててこう言ったの

です。「天の御父は、回復がほんとうに起こったという証^{あかし}をわたしに下さいました。わたしはモルモン書が真実であることを知っています。わたし、できます！アトキン長老、手を貸してください。」

わたしたちは門までの長い距離を歩きました。守衛の前を通り過ぎるとき、インゲボルクの息遣いが荒くなりました。わたしたちは白い服に着替え、基地のプールに行きました。プールは神聖な場所になり、わたしたちは平安な気持ちに包まれました。水に入り、バプテスマを受けて教会員になると、インゲボルクの顔から苦悩の表情が消えて、喜びの表情に変わりました。

バスに乗って帰る道すがら、彼女はこう話してくれました。「長老たちがモルモン書を置いて行ってくれた晩は、うれしくてたまりませんでした。アルマが民にバプテスマを勧めることについて書いてあるモーサヤ書18章まで眠らずに読み続けました。『見よ、ここにモルモンの泉がある。……あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願って〔いる。〕……バプテスマを受けるのに何の差し支えがあるろうか』(モーサヤ18:8, 10)。」

そして、穏やかに話を続けました。「この言葉を読みながら眠ってしまったんです。そして夢を見ました。わたしは『モルモンの泉』のようなきれいな泉の近くに立っていました。泉の向こう岸には白い服を着た人たちが立っています。わたしの家族でした！戦死した夫がにっこりほほえんで、バプテスマを受けなさいと手招きしていました。」

その晩、ビエンムラー姉妹はヴェルツブルク支部の会員になり、ついに恐れを克服して教会に入った多くのドイツ人の一人となったのです。■

ロイ・アトキン
(アメリカ合衆国、カリフォルニア州)

インゲボルクは振り返ってこう言いました。「わたしにとってこれがどんなに大変なことか分かりますか。」



プレゼントを受け取りに来ました

わたしは地方部会長会の一員として働いていたとき、コロンビアのソワカ市に住む貧しい子供たちのために、地方部の会員からおもちゃを寄付してもらって活動を担当しました。全員が快く応じてくれました。皆が皆、新しいものではありませんでしたが、ほとんどは状態の良いものでした。

数台のバスに贈り物を積み込み、ソワカ市へ向かう準備を終えたとき、一人の少女がプラスチック製のボールを手にして、わたしのところにやって来ました。それはかなり使い込んだ、

傷だらけのボールでした。わたしはこんなくたびれたボールをだれが寄付したのだろうかと思いながら、受け取りました。欲しがら子供などいないだろうと考えて、座席の下に放り込んでおきました。

現地に着くと、訪問した青少年がクリスマスの賛美歌を歌い始めました。クリスマスの帽子をかぶって歌う彼らの歌声を聞きつけて、大勢の子供たちが集まって来ました。プレゼントを渡し始めると、受け取った子供がほかの子供たちを呼んできました。こうして、プレゼントはたちまちなくなってしまうました。

弟の幸せを一心に願った
その兄のように、
わたしも人々に
幸せをもたらすために
情熱を傾けたいと、
心の中で願いました。

帰る準備をしていたとき、8歳くらいの少年が弟の手を引いてわたしたちの方へ走って来るのに気づきました。やって来ると、お兄ちゃんが言いました。「プレゼントをもらいに来ました。」その無邪気な様子に心を打たれたわたしは、何と答えたらよいか分かりませんでした。

贈り物は全部配ってしまったことを説明すると、兄は言いました。「ぼくはなくてもいいのですが、弟にはどうしてもあげてほしいんです。」

そのとき、座席の下に放り込んだボールのことを思い出しました。そしてもう一つだけ残っているけれども、それはあまりきれいな贈り物ではないと言いました。

「何でもかまいません。それでいいです」と彼は言いました。

わたしはバスに戻ってボールを見つけると、それを弟に渡しました。彼は大喜びでした。感謝のあまり飛び上がって言いました。「イエス様をお願いしたのはボールだったの！」うれしそうに小躍りしながら、二人は大切な贈り物を手にして帰って行きました。

平安と感謝の気持ちに包まれたわたしは言葉なく立ち尽くして、涙を流しました。弟への思いやりと無私の精神がわたしの心に響きました。弟の幸せを一心に願ったその兄のように、わたしも人々に幸せをもたらすために情熱を傾けたいと、心の中で願いました。

少年たちが幸せそうに立ち去ったとき、救い主がわたしたちを愛しておられることを思い起こしました。クリスマスにつつましくボールをお願いしただけの少年を、救い主はお忘れになりませんでした。■

ウォルター・エミリオ・ボサダ・ロドリゲス
(コロンビア)





十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

クリスマスの約束

このクリスマスシーズンを、救い主に従い、
主が天の御父の御心^{みこころ}を行われたように、
わたしたちも主の御心を行うという
聖約を新たに作る機会とできますように。

わ たしたちは、救い主の生涯^{あがな}、贖い、復活の意味を理解しないかぎり、クリスマス^{うま}の意味を完全に悟ることはできません。

救い主の降誕について考えるとき、わたしはいつも主がピラトに告げた次の言葉を思い出します。「わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける。」(ヨハネ 18:37)

クリスマスの季節を迎えるに当たって、救い主に関する聖文の預言を深く考えてみましょう。それらは預言者が何げなく語った言葉ではなく、救い主の生涯と使命に関する目的と約束を、またわたしたち一人一人にとって救い主がどのような意味を持つのかを明らかにする、意義深い言葉です。

主の来臨に関する預言

キリストの来臨については、数千年にわたって予告されていました。イエス・キリストが降誕される2,000年ほど前に、アブラハムは、救いの計画においてイエスの果たす役割について教えました。そして主の降誕約1,400年前に、モーセはそのすばらしい真理を教え、700年前にはイザヤが、主の降誕、生涯、死を取り巻く状況を明らかにしました。

「それゆえ、主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ、おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルとなえられる。」(イザヤ 7:14)



「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」(イザヤ9:6)

「彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。……

まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。……その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。……

彼は……ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

彼は暴虐なさばきによって取り去られた。……

彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。」(イザヤ53:3-5, 7-9)

イザヤが預言した後間もなくして、預言者リーハイは壮大な夢を見て、そこで知ったことを家族に教えました。ニーファイはこのように記しています。「そして、まことに父がエルサレムを去ってから六百年後に、主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者すなわちメシヤ、言い換えれば、世の救い主を立てられる。」(1ニーファイ10:4)

リーハイはまた、大勢の預言者が世の贖い主の来臨について証していると

語りました(1ニーファイ10:5参照)。

クリスマスの約束

ルカによる福音書には、救い主が降誕される前に、救い主の母親がいとこのエリザベツのもとへ大急ぎで向かったことが記されています。

「エリザベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリザベツは聖霊に満たされ、

声高く叫んで言った、『あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。』」(ルカ1:41-42)

聖霊はエリザベツに証したように、預言者たちの言葉が成就していることをわたしたちに証してください。救い主は来て、御父から遣わされて行うように言われた業を行われました。

ニーファイは救い主についてこのように記しました。

「それで眺めると、腕に^{おきなご}幼子を抱いたおとめが見えた。

すると天使がわたしに言った。『神の小羊、まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。』」(1ニーファイ11:20-21)

救い主は12歳のときに、神殿の中で教えられました。心配する両親に対して、御自分の父の業を行っていたと説明されました(ルカ2:42-49参照)。

救い主が地上における御自分の使命を果たされたときに、御父の業は成し遂げられました。救い主はその使命が完遂したことを、感動的な言葉で説明しておられます。

「わたしは自分の民のところに来たのに、民はわたしを受け入れなかった。



わたしたちは毎週、
聖餐の儀式にあずかるとき、
それぞれの生活において
救い主の降誕の約束を新たにします。

わたしの来臨に関する聖文は成就している。

わたしを受け入れた者に、わたしは神の子となることを許した。わたしの名を信じる者にも同様にしよう。見よ、わたしによって贖いは可能になっており、またわたしによってモーセの律法は成就している。」(3 ニーフアイ 9:16-17)

救い主の息子、娘となるという主の約束が実現するには、わたしたちが救い主を信じて、信仰を行使し、従順でなければなりません。こうして、永遠の命という賜物^{たまもの}を受ける準備が整えられるのです。

主はこのように言われました。「見よ、わたしは、自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である。わたしはイエス・キリストである。……わたしによって全人類は命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。そして、これらの者はわたしの息子となり、娘となる。」(エテル 3:14)

クリスマスの意味

クリスマスは、わたしたちが受けている贈り物をほかの人々と分かち合い、彼らを強め、神の王国の務めを果たす時です。クリスマスは人々に愛を表し、救い主の証を述べる時でもあります。

証を分かち合うために、主の降誕について話し合えるようキリスト降誕の飾り物を家に置いておく方法があります。*The Mansion* [英語] という作品に登場するジョン・ウェイトマンの物語などを話して聞かせるのも、一つの方法です。

ジョン・ウェイトマンはその慈善行為によって人々の注目を浴び、名声を得ている成功者でした。ある晩、自分の寛大な行為をたたえる新聞の切り抜き集に目を通した後、彼は聖書を手に取りました。救い主の次の言葉を読むと、間もなく眠ってしまいました。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびが付き、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。」(マタイ 6:19)

ジョンは眠っている間に自分が「天の町」にいることに気づきました。自分の家を受けるため、ほかの人々とともに歩いていました。番人は使い古された資材で作られた小屋の前で止まると、ジョンに言いました。「これがあなたの家ですよ。」

ジョンは、人々のためにどれほど貢献してきたかを数え上げて、自分ももっと立派な家を与えられるはずだと主張しました。

「あなたは地上で事細かに記されたことによって、名声を得てきたのではないのですか」と番人は尋ねました。「あなたはそのようなことについて報いを受けてきたのです。もう一度報いを受けられるとでも考えているのですか。」¹

このクリスマスの季節に、わたしたちがそれぞれ、人目につかずに与える機会に出会うことを願っています。

約束を受ける

わたしたちは毎週、聖餐^{せいさん}の儀式にあずかる時、それぞれの生活において救い主の降誕^{みん}の約束を新たにします。主の御名を受け、従順の聖約を更新し、主を常に覚えることを改め

て約束するのです。

福音について教義と聖約には次のように記されています。

「彼、すなわちイエスは、世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため世に来た。

……すべての者が、彼によって救われるためである。」(教義と聖約 76:41-42)

このクリスマスシーズンを、救い主に従い、主が天の御父の御心を行われたように、わたしたちも主の御心を行うという聖約を新たにできる機会とできますように。そのとき、救い主の来臨の125年前に記録されたベニヤミン王の民の言葉が今日のわたしたちに成就することでしょう。「おお、あわれんでください。わたしたちが罪の赦し^{ゆる}を受けて心が清められるように、キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください。わたしたちは、天地と万物を創造され、また将来人の子らの中に降^{くだ}って来られる神の御子イエス・キリストを信じています。」(モーサヤ 4:2)

わたしは、救い主が時の中間に降って来られたこと、そして再び来られることを証します。救い主の再臨に先立つこの最後の神権時代に回復された主の教会は、わたしたち末日聖徒が携わっている「驚くべき業と不思議」であることを証します(2 ニーフアイ 25:17)。■

注

1. ヘンリー・バン・ダイク, "The Mansion," *Inspirational Classics for Latter-day Saints*, ジャック・M・ライオン編 (2000年), 54-57, 62-63で引用



十二使徒定員会
ジェフリー・R・
ホランド長老

再臨 に備える

過去の時代の善良な男女が前進し、証^{あかし}を述べ、最善を尽くし続けることができたのは、
自分たちが成功することを知っていたからではなく、
皆さんが成功することを知っていたからです。

わたしたちは、人類に与えられた最も大いなる福音の神権時代に生まれてきました。そして、その機会を最大限に活用する必要があります。

わたしは、預言者ジョセフ・スミスの次の言葉が大好きです。昔の預言者、祭司、王たちは、「わたしたちの生きているこの時代を楽しみに待ち望んでいました。天からの喜びのおとずれに胸を躍らせ、この時代について、歌い、書き、また預言しました。」¹ 同じような内容ですが、ウィルフォード・ウッドラフ大管長が語った次の言葉に注目してください。「神とすべての聖なる預言者たちの目が、わたしたちに注がれています。わたしたちは、世界の創造以来常に語られてきた、大いなる神権時代に生きています。」²

昔の神権時代と当時の指導者、家族、人々について、わたしには持論があります。わたしは過去の時代を生きたこのような人々について、また彼らに迫っていた破滅的な状況について、何度も考えました。彼らは恐ろしいほど困難なことに直面し、ほとんどの場合、その神権時代の間には成功を見ることができませんでした。実際、福音が末日に回復されたのは、過去の時代では福音が存続することができず、この最後の勝利の時代に推し進められるしかなかったからなのです。

背教することのない神権時代

つまり、どんな形であれ、背教や滅亡が、これまでのすべての神権時代の最終的な結末だったのです。これはわたしの持論ですが、過去の時代の善良な男女や指導者が前進し、証を述べ、最善を尽くし続けることができたのは、自分たちが成功することを知っていたからではなく、皆さんが成功することを知っていたからです。彼らは自分たちが置かれた状況からではなく、むしろ皆さんから、すなわち、福音が広まり、勝利を収めるために力を尽くすと決意して集まった、世界中の何十万という若い人々から勇気と希望を得たのだと、確信しています。

モロナイはかつて、彼の記録を末日に受け取ることになるわたしたちにこう語りました。

「見よ、これらのことがあなたがたの中に起こるその時代に、間もなく必ず出て来るものについて、主は大いなる驚くべきことをわたしに示してくださいました。」

見よ、わたしはあなたがたがここにいるかのように語っているが、あなたがたはまだこの世にいない。しかし見よ、イエス・キリストがわたしにあなたがたを見せてくださったので、わたしはあなたがたが行うことを知っている。」(モルモン 8:34 - 35)



ほとんどすべての預言者と昔の使徒たちは、何らかの形で今の時代に関する示現を受け、実り少ない自らの時代にあって、その示現から勇気を得たのだと思います。これらの預言者たちは、わたしたちについて驚くほど多くのことを知っていました。モーセ、ニーファイ、ヤレドの兄弟などの預言者は、末日に関する詳細な示現を見ました。喜ばしくないものも見ましたが、それでも、これら昔の世代の人たちは皆、ついには背教することのない神権時代が到来することを知って励まされたのです。

天の導きを受けたすばらしい期待を彼らに与え、勝利を歌い、預言させたのは、彼らの時代ではなく、わたしたちの時代でした。総体的に言えば、時の初めから預言者たちが目にしていたのはわたしたちの時代であり、それらの預言者は今でもわたしたちを応援し、励ましています。彼らがほんとうの意味で自らを成功者と見なせるかどうかは、わたしたちの忠実さとやり遂げることにかかっているのです。アルマやアビナダイの行いと教えたことを受け継ぎ、ペテロやパウロの払った犠牲に代わって、末日の戦いに出で立つことを思うとうれしくなります。人類史上、これ以上に心躍ることがあるでしょうか。

キリストの教会を主の再臨に備える

この神権時代についてもう一つ付け加えましょう。それはこれまで話したことの帰結とも言うべきものです。現代が最後の最も大いなる神権時代であるという理由から、また、この時代にすべてのものが最終的に頂点に達して成就するという理由から、ある特別な、実に特別な責任がわたしたち教会員にかかってきます。昔の教会員

には同じように与えられていなかったものです。アブラハム、モーセ、イザヤ、エゼキエルの時代の教会だけでなく、新約時代のヤコブやヨハネの教会とも異なり、わたしたちには神の小羊の教会を整えるという責任があります。福千年に勝利の栄光の中で、直接に神の小羊を主の主、王の王としてお迎えするためです。この責任を負った神権時代はほかにありませんでした。

わたしたちには神の小羊の教会を整えるという責任があります。福千年に勝利の栄光の中で、直接に神の小羊を主の主、王の王としてお迎えするためです。

聖文の言葉を使えば、わたしたちは歴史上、花婿を迎えるために花嫁の準備を整えるよう選ばれた者なのです。そして婚宴に招待されるためにふさわしくなければなりません（マタイ 25：1 - 12；22：2 - 14；教義と聖約 88：92, 96 参照）。これがわたしたちの生きている間に来るのか、それとも子供や孫の時代なのか、それがいつであるとしても、わたしたちは教会として、また一教会員として、キリストの訪れを受けてキリストにまみえ、さらにはキリストに歓迎され、受け入れられ、迎えられ、抱きしめていただけるだけのふさわしさを身に付ける責任があります。その神聖な時に、ふさわしい

人生を送ってきたことを示す必要があるのです。

主に受け入れられる必要がある

わたしは畏敬の念に満たされています。また、自らの生活を整える（また、力の及ぶ範囲で、教会の会員の生活を整える助けをする）という務めに圧倒される思いがします。長い間預言されてきたその日のため、権能を主にお返しするため、そして主の教会を主にお返しする日のために、自らの生活を備えるのです。

キリストが来られるときに主に受け入れていただきたいのなら、主の教会の会員はそれにふさわしい装いと振る舞いを身に付けなければなりません。主の業を行い、主の教えに従って生活する必要があります。主はわたしたちが真の弟子であることをあっさりで見分けられるはずで、J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長（1871 - 1961年）は、以前こう勧告しました。「わたしたちの信仰は分かりにくいものであってはなりません。」³

そうです、大いなる最後の時に自分は信者であると言うのであれば、行動によって示さなければいけません。羊飼いは御自分の羊を知っておられ、わたしたちはその大いなる日に、言葉だけでなく行いにおいても主に従う者であると、知っていただく必要があるのです。

愛する若い友人の皆さん、今は末日であり、皆さんもわたしも最高の末日聖徒になる必要があります。どうかこの聖徒という言葉に重点を置いてください。

すべてはいつ終わるのでしょうか。キリストはいつ人々の前に勝利者としてその御姿を現され、福千年が始



アルマヤアビナダイ、
ペテロやパウロに代わって、
そして彼らが擁護し
犠牲を払ったもののために、
末日の戦いに出で立つことを思うと
うれしくなります。
人類史上、これ以上に心躍ることが
あるでしょうか。



まるのでしょ。わたしには分かりません。分かっていることは、その先駆けとなる出来事が193年前に起きたということです。最初の示現とその後の出来事の結果として、わたしたちは前例のない祝福の時代に生きています。忠実で、清い生活を送り、最終的に誇らしげに到着する花婿が、わたしたち一人一人をふさわしい者として、婚礼の祝宴に招いてくださるという祝福です。

愛する若い兄弟姉妹、わたしの愛と証をお伝えます。神は確かに生きておられるだけでなく、わたしたちを愛しておられます。皆さんを愛しておられます。神のなされることはすべてわたしたちのためであり、守りを与えるためです。世の中には悪や悲しみがありますが、神が悪や危害をもたらさ

れることはありません。神はわたしたちの御父、完全なお父様であられ、わたしたちを^{あらし}から守ってくださいます。

皆さんに考えてほしいことはただ一つ、大いなる神権時代のあらゆる祝福がわたしたち一人一人と、わたしたちが接するすべての人々に注がれるために、わたしたちはどうしたらもっと充実した、もっと忠実な生活を送ることができるかという、実に個人的なことだけです。

「小さい群れよ、恐れてはならない。……あらゆる思いの中で〔キリストを〕仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」「あなたがたは……父がどれほどの大いなる祝福を……備えておられるかをまだ理解していない。」(教義と聖約6:34-36;78:17)

皆さんにわたしの祝福と愛、そして

すべてが真実であるという使徒としての証をお伝えます。わたしたちの神権時代は背教することはなく、キリストの教えを実践し、その業を行う人は、花婿が来られるときに婚宴に招待されるにふさわしくなるのです。■

2004年9月12日に行われたヤングアダルト対象の教会教育システムファイヤサイド、「Terror, Triumph, and a Wedding Feast」(「恐怖、勝利、そして婚礼の祝宴」)からの抜粋。英語で全文を読むには、speeches.byu.eduにアクセスしてください。

注

1. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第4巻, 609-610
2. ウィルフォード・ウッドラフ, ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻(1965-1975年), 第3巻, 258; ゴードン・B・ヒンクレー「明るい夜明けだ」「リアホナ」2004年5月号, 83も参照
3. J・ルーベン・クラーク・ジュニア, *The Charted Course of the Church in Education* 改訂版(1994年), 7

「誘惑をどのようにして 退ければいいでしょうか。」

奇 妙に聞こえますが、誘惑は霊的な成長に必要です。誘惑されなければ、善か悪かを選ぶことができません（教義と聖約 29：39 参照）。別の選択肢が提示されたときに善を選んでこそ、わたしたちは霊的に成長することができます（2 ニーファイ 2：11 - 30 参照）。

誘惑を退けるための一つの鍵は、一貫して従順であることです。何度か誘惑に屈すると、やがて誘惑を退けるのが難しくなります。しかし、常に退けていれば、強くなり、やがて退けるのが容易になります。退けるための力は多くの場合、日々の生活に働きかける救い主の贖いからもたらされます。救い主の教えを学び、その教えに従おうと最善を尽くすときに、主は誘惑に耐えることができるようあなたを強めてくださいます。

聖典は誘惑を退ける他の方法も教えています。

「勝利者となるために、まことに、サタンに打ち勝つために、……常に祈りなさい。」（教義と聖約 10：5）

「だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはないと言った。」（1 ニーファイ 15：24）

「悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。」（ヤコブの手紙 4：7 - 8）

また、誘惑を受けること自体は間違いではないということを知ることが重要です。イエスですら誘惑をお受けになりました。「独り子は数々の誘惑に遭われたが、それらを少しも心に留められなかった。」（教義と聖約 20：22）

力を求めて祈る



誘惑に耐えるためには、まず正しいことを選ぶ意志の力と、心からの望みが必要です。わたしの場合、前もって状況を心に描き、その時点で正しいことを選ぶというのが、とても助けになります。もう一つの助けは祈りです。力を得られるように祈り、霊的な養いを求め、

どこで時間を過ごすか慎重に選ぶなら、聖霊がいつもわたしたちの伴侶となり、わたしたちとともにいて、警告を与えてくださいます。

エスザー・G, 18 歳（ドイツ、ニーダーザクセン州）

互いに支え合う



毎日聖典を読み、祈り、自制心を働かせ、預言者の言葉に従うことによって、誘惑を退けることができると思います。

誘惑を退けることによって、信仰は強まり、天の御父に対して、自分が交わした聖約を守るという決意を表すことができます。教会の友人も助けになります。なぜなら、友人同士で支え合うことができるからです。「嫌です」と言うには大変な勇気が必要です。でも、忘れないでください。「というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」（2 テモテ 1：7）誘惑を克服するとき、わたしたちはイエス・キリストと天の御父にさらに近づくことができます。

ナンジー・S, 19 歳（メキシコ、ツルティラン）

信仰を分かち合う

高校のクラスメートの大半は、お酒を飲んだり、ポルノグラフィーを見たりしようと、ほくをよく誘いました。ほくはいつも断りました。断ることが救い主の望んでおられることだからです。ほくは主を覚え、主と交わした聖約を守ります。友人やクラスメートから誘惑されないこともあります。ほくの宗教がどんなものかすでに知っているからです。周囲の人々、特に友人、クラスメート、隣人、そして家族と、ほくの信じていることや証を分かち合うときに、周囲から受ける誘惑は少なくなります。生活の中で福音を実践することによって、誘惑を克服することができると思っています。

ロメオ・P, 19 歳
（フィリピン、ネグロス・オクシデンタル）

聖霊に耳を傾ける

誘惑が来るとき、正しいことを選ぶように聖霊が警告しようとするのが分かりました。御霊がいつもともにあるようなこと、例えば、祈ったり聖典を読んだりして、聖霊が注がれない所には行かないことです。

レイチェル・O, 13歳
(アメリカ合衆国, ペンシルベニア州)

聖なる場所に立つ



兄はわたしにいつも「聖なる所に立つように」と言います。これは誘惑が少ない、あるいはあまり誘惑が激しくない所に立つということだと分かりました。

ステーキ会長はこう言いました。「誘惑を退けるだけでなく、避けてください。」やって来る誘惑を退けなくてはならないときもありますが、誘惑されない環境にいるときの方が、福音を実践するのは容易になります。

アロン・L, 18歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

わたしたちはいつも自分で決めることができる

聖霊の賜物の助けによって、わたしたちは善と悪を区別し、誘惑を受けているときには、それと気づくことができます。わたしたちは、誘惑が試練であり、この試練を通して、わたしたちが正しいことをするかそうでないかが明らかになるということを知っておくべきです。また、わたしたちが主に従っているかぎり、主はわたしたちを耐えられないような誘惑に遭わせられることはないということを知っておくべきです(1コリント10:13参照)。わたしたちは正しい道を選ぶか、間違った道を選ぶか、いつも自分で決めることができるのです。

ホワン・T, 19歳 (ウルグアイ, モンテビデオ)

正しいことを選ぶロールプレーをする



自分が直面する選択については、前もってどうするか決めておくことが大切だと思います。わたしは予想外の難しい状況に直面したことがあります。幸い結果は良いものでした。標準から外れたことはしないとすでに決めていたからです。気恥ずかしく感じることがありますが、わたしの家では、誘惑に遭ったときに何をし、何を言うべきか分かるように、ロールプレーをする習慣があります。

エメリン・P, 14歳
(アメリカ合衆国, ワイオミング州)

良い友人を持つ

正しいことを選ぶ友人を持つことは、誘惑を避けるためにできることの一つです。そのような友人は、良い模範を示してくれます。誘惑を受けたら、そのような友人に電話をかけることができます。正しいことが選べるように助けてくれます。良い友人は、祈り、聖文を読み、戒めに従うことを思い出させてくれます。

サム・E, 17歳 (アメリカ合衆国, ワシントン州)



早い時期に信仰を働かせると決意する

「永遠の命への道を選ぶには、主イエス・キリストを信じる揺るぎない信仰が必要です。……この信仰を基にして行動すれば、神の御心を行う力が得られます。イエス・キリストを信じる信仰を働かせれば、誘惑を退け、贖いの力を通して赦しを得られるのです。……」

誘惑を退けるのは、早いほどいいのです。悔い改めをするのに最も適した時期は今です。魂の敵であるサタンは、心よからめ考えを吹き込んで誘惑します。早い時期に信仰を働かせようと決意すれば、行動に移す前に悪い考えを捨て去ることができます。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長
「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」
『リアホナ』2005年11月号, 38, 40

次回の質問

「教会の標準に従っているために、学校でばかにされたときには、どうしたらよいでしょう。」

あなたの意見と、希望する場合は高画質の写真を、2014年1月15日必着で liahona.lds.org まで、電子メールで liahona@ldschurch.org、または郵送で(3ページの住所参照) お送りください。

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、次の情報と許可文を必ず明記してください。(1) 氏名、(2) 生年月日、(3) ワードまたは支部、(4) ステークまたは地方部、(5) 意見と写真の掲載を許可する、あなたの署名(18歳未満の場合は保護者の署名も必要です〔電子メール可〕)。



七十人
ブラッドリー・D・
フォスター長老

終着点からの眺め

終着点からのメッセージは明確です。

「あなたにはできる。やれば、すべてがもっとよくなる。」

「**ビ**ショップ、あなたのことは一生忘れません。あなたはわたしを救ってくれました。」

今日、このように言うその男性も、最初からそう感じていたわけではありません。当時10代だったこの男性は、恐れていました。悔い改めなければならないことは分かっていた。当時彼のビショップだったわたしに話す必要があることを知っていました。しかし、彼は不安でいっぱいでした。

「ビショップはぼくの何をどう思うだろう。」

「このことをだれにも言わないでいてくれるだろうか。」

「これからどんな顔で会えばいいのだろう。」

そのような不安が押し寄せてきて、悔い改めの道を歩むために必要な勇気を奮い起こすのはとうてい無理なように思えました。

道の先を見る

しかし、その道のりを見てみましょう。悔い改めの過程は、部分的には簡単です。その一つのステップは、罪を認めることです。間違っただけだと分かっているとき、わたしたちは通常そうだと分かっています。そう感じられるよう

に聖霊が助けてくださっているからです。わたしたちは変わる必要があります。変わりたいという望みは、普通強いものです。

それ以降、ステップは徐々に難しさを増します。罪を告白し、捨てる必要があると主はおっしゃっています。祈りの中で天父に告白することはとても簡単に思えます。多くの罪はこの方法により改めることができます。つまり、できることはすべてやり尽くしたという御霊の確証があるまで、赦しを求め、罪を償い、行いを改善するのです。

しかし中には、告白するためにビショップや支部会長に話すことが求められる場合があります。この若い男性は、まさにその状況にありました。自分の力を超える助けを必要としており、その道を進むことができるということを知る必要がありました。

道程にある希望

悔い改めの道を歩んだことのある人なら、その道には終わりがあるということだけではなく、歩んだ道のりを振り返ってみると、次のようなことが分かるでしょう。

あなたにはできる。

やれば、すべてがもっとよくなる。

主がわたしたちに悔い改めるよう命じられるのは、わたしたちを愛しておられるからです。主は贖いを通してわたしたちの罪の代価を支払われたため、悔い改めがわたしたちに自由をもたらすことを御存じです。主は、主に頼る人すべてを強めてくださいます。アルマは、贖いの恵みにあずかるためにわたしたちは皆、悔い改める必要があると教えました（アルマ5：33 - 34参照）。道は険しいかもしれませんが、ビショップがともにその道を歩んでくれるでしょ



ほほえみましょう

「悔い改めは神の賜物であり、ほほえみをもって話すべき事柄なのです。」

十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老
「悔い改めという神の賜物」
『リアホナ』2011年11月号, 38



う。その道を歩む人には助けがあるのです。

その道を歩み始めた途端、
あんど
安堵の気持ちを感じてください。

ビショップに頼ってください。ビショップはあなたを愛し、敬意を払ってくれるでしょう。あなたはビショップとの間に、深い信頼関係を築くことができます。それは永続し、将来のビショップについても安心感を抱く助けとなるでしょう。ビショップは問題について違う視点を与えてくれるでしょう。知恵と経験、さらには主からの靈感により、ビショップは正しい視点を与えて、あなたが克服できそうにもないと思ったことが、実はほんの小さな障害物であることを教えてくれるでしょう。

ビショップは、救い主が世の光であることをあなたがよく理解できるように助けてくれるでしょう。贖いの恵みにあずかることにより、生活は輝き、将来は明るくなり、主イエス・キリストを信じる信仰を得ることが、地上に来て生活する大きな目的の一つであることを理解するようになるでしょう。

ビショップはこの窮状を切り抜けるように助けてくれます。あなたはビショップを愛するようになり、彼を

一生忘れることはないでしょう。

危機の際に助けてくれる人との間には固い心の結びつきが

生まれると、わたしは確信しています。そうだとすれば、霊的な危機にあるあなたを助けてくれるビショップとの間にどれほど強い心の結びつきが生じるのでしょうか。主は、あなたを導くビショップの思いやりと能力を増し加えることがおできになります。ビショップは永遠の友となるでしょう。

また、いつか自分自身がビショップやステーキ会長になる若い男性の皆さんにとって、ビショップとの経験は、将来皆さんが机の向こう側の人となるための訓練になるでしょう。

最後に、この若い男性と面接したときのことをもう少しだけ話しましょう。彼はこう言いました。「ビショップ、これからぼくが話すことを聞けば、ぼくを嫌いになると思います。ぼくの顔などもう見たくなくなるでしょうし、もしこれから話すことをだれかに口外するようなことがあれば、ぼくは自殺します。」

わたしはこう言いました。「君の信頼を裏切るようなことは決してしないと約束する。君から聞いた話は、墓まで持って行こう。」

彼はまず、あまり大したことのない問

題について話し、わたしの反応を見えていました。わたしが「君がどんな経験をしているか、分かるよ。君を助けたいんだ」と言うと、ぼつりぼつりと話し始め、ついに本題に入りました。わたしは、彼が告白し、変わりたいと望んでいることに敬意を感じていることを何度も伝えました。彼は今にも逃げ出しそうでしたが、話さなければならないことをすべて話し終えました。

大変なことだったのでしょうか？ 彼にとってはそうでしょう。しかし、一緒に話していくうちに、彼は心から悔い改める人に主が注がれる憐れみについて、もっとよく理解できるようになりました。最初の面接以降、わたしたちは一緒にこの問題に取り組み、時間をかけて悔い改めを終えました。今でも彼はわたしにあいさつがてら電話をかけて来て、楽しく会話をしています。

わたしは、だれもが贖いに頼っていることを理解できるように助ける特権にあずかりました。わたしは彼とともに、イエス・キリストをたたえる声を上げます。主こそ、彼をほんとうに救ってくださった御方なのですから。■



わたしは、ポルノグラフィーへの依存がまさか女の子にとって問題になるとは思ってもみませんでした。でも16歳のとき、そうではないということを自ら証明してしまったのです。ポルノグラフィーのビデオを偶然目にし、一人きりだったわたしは好奇心からそれを見てしまいました。その初めてのとき以降、毎日何かを見なければ気が済まなくなりました。ポルノグラフィーに依存するようになったのです。

ポルノグラフィーを見ると、嫌な気持ちがありました。悪いことだと分かっていたが、自分を変えるために何もしようとはしませんでした。気分はまったく

若い女性だったわたしは、自分がポルノグラフィーの問題を抱えることになるなどとは思ってもみませんでした。

依存からの立ち直り——

ポルノグラフィーを克服するまでの道のり

匿名

晴れず、自分が汚れ、サタンの仕掛けた汚れに染まってしまったと感じました。しかし、それでもわたしは自分の欲求を満たすために様々な方法を使ってポルノグラフィーを見続けました。この依存症のために、わたしは悪い行いを重ねていきました。みんなにうそをつきました。兄弟や母親、そして最悪なことに、主と自分自身に対しても、うそをつきました。あと一つ映画を見ても自分は傷つかないし、あと一つ不道徳な話を読んでも、それほど悪いことではない、と自分に言い聞かせたのです。

その後も教会やミーチャル、セミナーには行っていましたが、態度も悪く、御霊もありませんでした。反感を持っていたため、レッスンから何も学ぶことができませんでした。什分の一を納めることも、祈ることも、聖文を読むこともやめてしまいました。罪悪感を抱いていましたが、どうしてもやめることはできませんでした。毎日、気分は落ち込むばかりでした。

そのうち、ポルノグラフィーを見る手段が制限されました。最初、わたしはポルノグラフィーを取り上げられたと思いましたが、様々なことが良い方向に変わっていったことに気づきました。日課が変わりました。毎日ポルノグラフィーを見ることがなくなりました。見たいという衝動にかられることはありましたが、その思いを抑えることができるようになっていきました。ポルノグラフィーに依存するようになってから2年後、力を求めて絶えず祈り始め、ついにそれを見るのを完全にやめることができました。しかし、心はまだ汚れたままだと感じていました。ビショップに話す必要があることは分かっていたのですが、どうしてもそうすることができませんでした。

悔い改めの過程を歩んだ経験や試練を克服した経験について大勢の人から話を聞き、ついにわたしはどうして

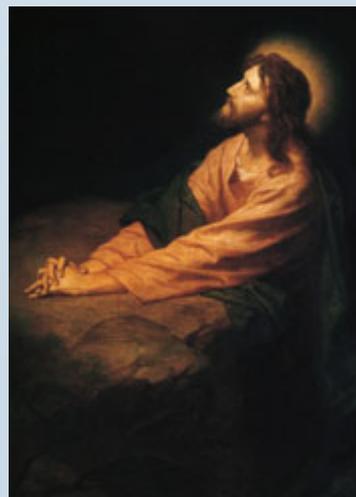
もビショップに話さなければいけないと感じました。また、教会の大きな祝福の一つを手に入れていないことにも気づきました。祝福師の祝福です。

わたしはビショップと会う約束を取りました。

面接の晩、ビショップ室に入っていくときに恥ずかしい気持ちがしました。わたしは、ビショップがわたしを見るなり、この件は絶望的であり、わたしが掘った穴は深すぎて逃れることができない、と言うのではないかと恐れていました。わたしを見るビショップの目は変わってしまうだろうとも思いました。しかし、わたしがすべてを打ち明けると、ビショップは愛に満ちた笑みを浮かべながら、熱心に話に耳を傾けてくれました。ビショップはわたしのことを心から大切に思ってくれていました。ビショップと話をし、幾つかのことに取り組んだ後によりやく、わたしは清くなったとビショップから告げられました。

ポルノグラフィーに依存していた数年間は、わたしの人生で最もつらい時期でしたが、自分が清いと感じながらビショップ室を出たとき、晴れやかな気持ちになりました。それは、まるで何年間も背負っていた重荷が肩から降ろされたようでした。祝福師の祝福を受け、ふさわしい状態で聖餐を受け、御霊を取り戻すことができうれしかったです。別人になったように感じました。ほかの人からも、わたしの様子がどれほど変わったか、またわたしの放つ光に変化があったことを聞きました。わたしは以前よりも常に幸せで、何事に対しても良い態度で臨むようになりました。

主の助けがあれば、自分を変え、依存症を克服できることを知っています。また、ビショップに話すことを恐れる必要はありません。ビショップは、わたしたちが悔い改め、イエス・キリストの贖いあがなを通じて再び清く感じられるように助けてくれる人だからです。■



悔い改めとは何か

「贖罪しよぐいによって、あなたは赦しゆるを受け、悔い改めるときに罪から清めていただくことができます。

悔い改めはただ単に悪い行いを認める以上の行為です。……悔い改めには罪を離れ、赦しを求めて神に立ち返ることが含まれます。

……罪を犯してしまったとしても、悔い改めが早ければ早いほど、それだけ早く元の道に戻り始め、赦しによって得られる平安と喜びを自分のものにできるでしょう。

……悔い改めようと努力するときに、両親に助けと助言を求めてください。性的な罪やポルノグラフィーの使用のような重大な罪については、あなたのビショップに告白する必要があります。ビショップに対しては完全に正直であってください。あなたが悔い改めるのを助けてくれます。」

『若人の強さのために』(小冊子) 28, 29

単なる わき役 ではなく

自分を
ホームティーチングの単なる助手だ
と思っていませんか。
考えを改めてください。

「どうすればだれかの友達となり、
ホームティーチャーになれるかを知っています。
どうやったらその人を助けられるかを
考えるのが好きです。」

小 説や映画の中で、このような
場面がよく出てきます。遠く
に垂れ込める暗雲のような、
大きな、恐ろしい問題があります。大
惨事は免れそうにもありません。そこ
へヒーローが現れ、次々と難題を克服
し、土壇場で勝利をもたらします。

そのようなヒーローには、しばしば
助手役の相棒がいます。通常、この登
場人物は基本的な技術を少し持ち合
わせているだけで、その役割はおも
に、ヒーローが危機に陥ったときに武
器を渡すことです。

ホームティーチングの後輩同僚は、
自分は先輩同僚のわき役だと考えがち
です。結局のところ、先輩同僚はあな
たより長くホームティーチングをやっ
ているのですし、経験もあります。務め
を果たせるかどうかは先輩同僚にか
かっている、と思っていませんか。

それは違います。

ホームティーチングの場合、スーパー
ヒーロー（先輩同僚）と相棒（あなた）

という関係ではありません。二人の
スーパーヒーローがいて、一緒に世界
をがらりと変えることができるのです。

あなたがだれであり、どのような経
歴であろうと、訪問先の人々の生活に
大きな違いを生むために必要なもの
を、あなたは持っているのです。

比類のない、大いなる召し

エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899
- 1994年）は、「ホームティーチャー
ほど偉大な教会の召しはほかにありま
せん」¹とっています。

ホームティーチャーは、単に霊的な
メッセージを伝えるよりはるかに多くの
ことを行います。訪問先の家族に、頼る
ことのできる友人がいることを知って
もらいます。

トーマス・S・モンソン大管長はこう
言いました。「友は毎月、義務的な訪
問以上のことをします。……友は親切
で、愛を示し、耳を傾け、手を差し伸べ
ます。」²

もちろん、深い友情は年齢に関係なく
築くことができます。

友として仕える

アメリカ合衆国ユタ州に住む16歳の
シヨン・Cは、どうすれば友達となり、





話し合いに参加する



12月の日曜日のレッスンでは、神の王国の建設に焦点を当てます。ホームティーチングはその一つの方法ですが、日々の奉仕を通してだけでも神の王国を築くことができます。ほかの人のために祈るとき、御霊はあなたにできることを思い出させてくれるでしょう。中央扶助協会会長のリンダ・K・バートン姉妹の、この勧告を覚えておいてください。「まず気づき、それから仕える。」⁴ 神の王国を築くために、あなたが気づき、仕えた経験にはどのようなものがあるでしょうか。ワードや家族、ほかの青少年に自分の経験を伝える準備をしておきましょう。

ホームティーチャーとなれるかを知っています。ショーンは、ロデオの競争やレスリング、牧畜、車の修理など、幅広い分野に関心があります。またホームティーチング先の人との間に、友情を築くことが大好きです。

「ほかの人と話して、どうやったらその人を助けられるかを考えるのが好きです」とショーンは言います。

ショーンのホームティーチングの同僚はビショップです。訪問先の一つは、奥さんが教会員で旦那さんがそうではない家族です。ショーンは初めての訪問で旦那さんのフロイドと仲良くなりました。フロイドが自分のジープについて話し始めると、ショーンは話に聞き入りました。「ぼくたちは意気投合しました」とショーンは言います。

ショーンとビショップがフロイドと奥さんを訪れた年に、ショーンは時折エンジンの修理をするフロイドを手伝うなどして友情を深めていきました。

ショーンは、奉仕についての次の聖句が好きです。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである。[。]」（モーサヤ2：17）

ショーンはこう説明します。「だれもが、奉仕する方法を探す必要があります。」

あなたの御霊の賜物

わたしたちには皆、御霊の賜物と才能があります。さらに、それぞれ異なる関心事や趣味があります。わたしたちはそれぞれ、ほかの人にはできない特別な方法で貢献ができるのです。

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えてい

ます。「だれもが違って、違った貢献をします。失敗する運命の人などいません。」³ ホームティーチングはほかの人のためにこのような賜物を使う機会となります。

例えば、霊的なメッセージを伝える番があなたに回ってきたとき、訪問先の人たちにとって最も役立つことを伝えることができるよう、前もって祈るとよいでしょう。

特定のテーマに関する個人的な経験があって、訪問先の家族にそのことについて話せるということがしばしばあります。あなたの光を輝かせてください。知っていることを伝えてください。

また、訪問先の家族のために、創造的で意義深い奉仕を行う方法を見つけることもできるでしょう。例えば、ホームティーチング先の家族にギターを習いたい人がいて、偶然あなたは何年もギターを弾いていたとします。この場合、音楽のこつを時折教えることは、車庫前の雪かきや木の剪定と同じくらい役に立つでしょう。

ホームティーチングの先輩同僚は、確かに霊的な人かもしれませんが、しかし、このことを理解してください。すなわち、あなたは神の子であり、ホームティーチャーとして先輩同僚と同等の責任を受けているのです。

あなたには常に、貢献できるすばらしいものを何か持っているのです。■

注

1. エズラ・タフト・ベンソン「教会のホームティーチャーへ」『聖徒の道』1987年7月号、54
2. トーマス・S・モンソン「ホームティーチング——神聖な奉仕」『聖徒の道』1998年1月号、54
3. ヘンリー・B・アイリング「高い目標を持てるよう青少年を助ける」『リアホナ』2012年11月号、60
4. リンダ・K・バートン「まず気づき、それから仕える」『リアホナ』2012年11月号、78

聖なる場所 に立つ



1

今年、教会機関誌では、
聖なる場所に立っている写真を送るよう、
全世界の青少年に呼びかけました。
送られてきた写真の何枚かをご覧ください。
そして2013年の
ミューチャルのテーマを实践するために、
青少年が何をしてきたかも
ご覧ください。



2



3

1 健全な活動に参加しているときならいつでも、わたしは聖なる場所に立っています。家族と一緒に参加しているときは、特にそうです。
レイ・R, 16歳 (カナダ、ブリティッシュコロンビア州)

2 この世のものよりも永遠の価値を持つものの方を大切にすると、わたしは聖なる場所に立っています。
キルク・M, 18歳
(フィリピン、ネグロスオクシデンタル州)

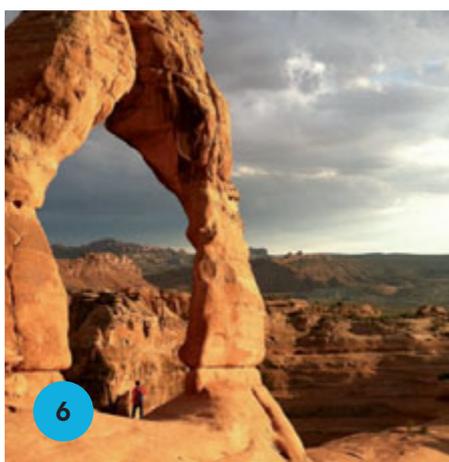
3 わたしにとって聖なる場所に立つとは、奉仕することです。大好きなのは、神殿での奉仕です。主の宮で主の業を行うと、強い御霊みたまを感じることができます。
キアナ・B, 15歳 (アメリカ合衆国、ユタ州)



4



5



6



7

4 わたしは、自分がバプテスマを受けたバプテスマフォントの横に立っています。このフォントは、聖なる場所だと思います。なぜなら、人が神と聖約を交わし、新しく生まれ変わる場所だからです。

ジョー・スミス・E, 17歳
(ナイジェリア, アクワ・イボム州)

5 山に登ってこの世から離れるといつも、山は聖く、平安な場所だと感じます。

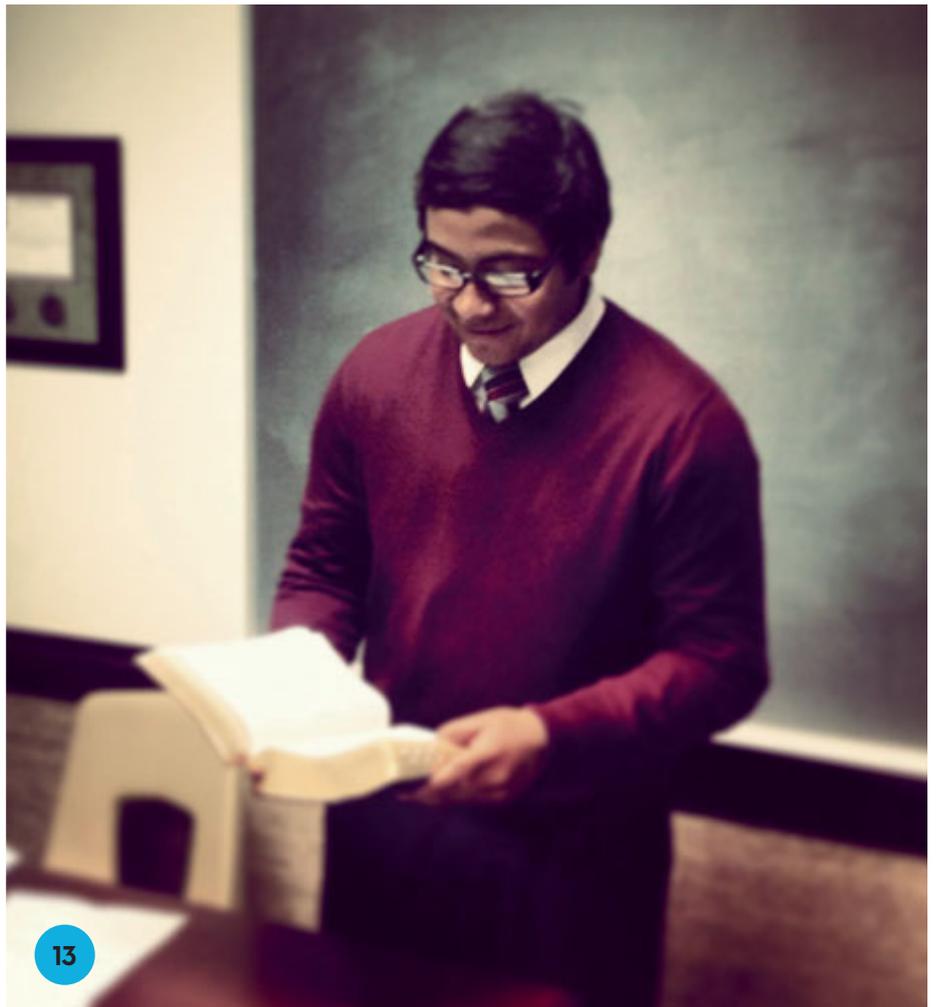
エマ・P, 17歳 (アメリカ合衆国, オレゴン州)

6 わたしは野外活動が大好きで、このような場所(ユタ州モアブのデリケート・アーチ)にいて、天の御父をさらに身近に感じます。天の御父がお造りになった驚くべきものを見ることができる場所にいて、御霊を感じやすくなります。

ジョン・T, 18歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

7 わたしの家は聖なる場所、神聖な場所です。家にいるととても幸せですし、平安を感じるからです。それにモルモン書を読むと、聖霊を通して平安を感じます。

メリッサ・D, 13歳 (コンボ)



そのほかの聖なる場所

青 少年が送ってくれた「わたしは……とき、聖なる場所に立っています」という文の空欄を埋める言葉は、ほかにもあります。

- 「友達に福音を伝えるときです。」 ジョン・B, 17歳 (ブラジル, セアラ州)
- 「宣教師と一緒に立っているときです。なぜなら、宣教師と一緒に働くと福音を伝える経験がたくさんできますし、わたしはもうすぐ専任宣教師になるからです。」 ジョセフ・H, 18歳 (インドネシア, ジャカルタ)
- 「バスケットボールのコートに立ってチームに貢献し、仲間だけでなく相手チームに対してもスポーツマンシップを発揮するときです。」 エミリー・C, 12歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)
- 「高校の合唱団の一員として歌を歌い、才能を披露するときです。」 タナー・M, 17歳; ケイリン・S, 15歳; レクシー・J, 17歳; スペンサー・M, 17歳 (アメリカ合衆国, アイダホ州)
- 「若い女性のキャンプに行くときです。同じ標準と価値観を持つほかの若い女性に会う機会や、正しいことができるように原則を教えてくれる指導者に会う機会があるからです。」 ノーマ・V, 17歳 (エクアドル, グアヤス州)
- 「セミナーに出席するときです。セミナーに出ると、その日一日、御霊があります。」 サバナ・F, 17歳 (アメリカ合衆国, アリゾナ州)
- 「学校のチアリーディングの練習で、信じていることをチームメートに知ってもらうときです。」 マケンナ・F, 15歳 (アメリカ合衆国, カリフォルニア州)
- 「聖餐のパスをして、イエス・キリストの贖いを思い起こすときです。」 アクセル・S, 14歳 (インドネシア, ジャカルタ)
- 「清さを保って正しいことを選ぶときです。清いままであれば、いつの日か神殿で結婚できますから。」 ホイットニー・H, 15歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)
- 「神と交わした聖約を守るときです。」 マーク・M, 17歳 (アメリカ合衆国, オレゴン州)

あなたが今年のミューチャルのテーマから学んだことについて考えてください。あなたにとって聖なる場所はどこでしょうか。どうすれば、これからも聖なる場所に立つことができるでしょうか。自分の思いを日記に書いてみてください。

8 これは「新年度セミナー」の写真です。わたしにとっては、若い女性の徳質や福音の原則を学ぶ教会の建物が、聖なる場所です。教会では、同じ信仰を持つ若い女性たちとの友情も深まります。

ルイーズ・S, 12歳 (ブラジル, リオグランデ・ド・スル州)

9 わたしは人を助けたり、良い友達と楽しいことをしたりするとき、聖なる場所に立っています。

ジェームズ・R, 17歳

(アメリカ合衆国, ノースカロライナ州)

10 福音に従って生活している友達と一緒にいるとき、聖なる場所に立っています。友達にわたしが天の御父から離れず、聖霊とさらに波長を合わせることができるよう助けてくれます。

ジョナサン・N, 17歳 (アルゼンチン, ブエノスアイレス)

11 聖餐会でピアノを弾くとき、わたしは聖なる場所に立っています。賛美歌のメロディーと歌詞が、わたしの信仰と証を強くしてくれます。

チエルシー・A, 13歳 (インドネシア, バンテン)

12 聖餐会で指揮をするとき、わたしは聖なる場所に立っています。会員たちの美しい歌声に感動するからです。

ジオバーニ・W, 15歳 (インドネシア, バンテン)

13 日曜日に自分の定員会のクラスでレッスンをするとき、わたしは聖なる場所に立っています。福音について話すのが大好きです。

ラモン・M, 16歳 (アメリカ合衆国, カリフォルニア州)





お気に入りの クリスマスソング

C・G・リンドストロム

あれはどこのワードにとっても典型的なクリスマスパーティーだったことを覚えています。テーブルには緑と赤の紙がかけられ、夕食が紙皿に載って出て来ました。小さな子供たちが走り回り、ワードの会員の楽しく語らう声が聞こえました。どうにかしてだれかが皆を静まらせて食事の祝福をし、皆で食べました。プログラムが始まろうとしていました。

それはわたしのワードではありませんでした。友達のワードのパーティーに行ったので、知らない人がたくさんいました。友達もわたしも早めに帰らなかつたのですが、帰らないで最後まで見て行って、と彼女のお母さんから強く勧められたのです。

最初の出し物の歌は、初等協会の子供たちによるものでした。金色の天使の輪を頭にかぶって舞台に歩いて登場しました。歌い終わると、押し合いながらくすくす笑って舞台を降り、その後には頭から落ちた天使の輪がたくさん転がっていました。

次に、楽しい歌のピアノ演奏が二人続きました。最初の奏者は「神の御子は今宵しも」(『賛美歌』117番)を間違えないで弾きました。次の奏者は少年でした。ピアノの前に座ると心配そうな顔で母親を振り返ります。母親が静かに拍子を取り始めると、少年はため息を

ついてピアノに向き直り、「屋根の上で (Up on the Housetop)」を精いっぱい上手に弾きました。

次の出し物は、わたしの大好きな「ク・リ・ス・マ・ス (C-h-r-i-s-t-m-a-s)」という曲でした。

目を上げると、背中が丸くなって片方の手が体から離れない姉妹が、足を引きずりながら歩いて来てピアノの横に立つのが見えました。片足に体重を乗せて立つと、歌い始める前に引きつった笑顔を見せました。うまく歌えるのかしらと、わたしは不当にも疑ってしまいました。

「わたしがまだほんの小さな子供だったころ、クリスマスにはたった一つしか意味がなかった」と彼女は歌い始めました。歌では、子供がクリスマスという言葉が書けるようになり、クリスマスのほんとうの意味を見いだしていく様子が語られていきました。

彼女は唇が片方垂れ下がっていて、言葉がうまく発音できませんでした。

わたしは注意深く部屋を見回し、彼女のワードの会員たちの表情をうかがいました。戸惑ったような顔をしている人は一人もいません。それどころか、皆ほほえみを浮かべて腰かけ、満足そうに聞き入っていました。

歌は続き、彼女は顔を上げて、天井の一点を見詰めました。しばらくしてわたしも見上

彼女がほんとうは
だれに向かって
歌っているのかに
気づくまで、
その歌の真の価値に
気づきませんでした。



げてみましたが、天井のタイルしか見えませんでした。でも、彼女に視線を戻すと、目に涙が光っているのが見えました。

歌が終わると、満場の拍手でした。彼女の頬は紅潮していました。席に戻るまで、彼女には多くの手が差し伸べられ、腕を触ったり肩をたたいたりして、ワードの会員たちが心からの感謝を表しました。何て上手なの、とわたしの近くに座っていた姉妹が声をかけると、彼女は小さな声でこう答えたのです。「ありがとう。あの御方も気に入ってくださったかしらね。」

あの御方？ どなたのために歌っていたのでしょうか。考えるまでもなく、わたしには分かりました。彼女はその部屋にいる人のために歌っていたのではなかったのです。聴衆の称賛を求めて歌ったのではありません。救い主に向かって、救い主をほめたためたために歌ったのです。

あのワードのパーティー以来、何度もクリスマスは巡ってきました。そして、鍛え上げたのどで歌われる「ク・リ・ス・マ・ス (C-h-r-i-s-t-m-a-s)」という歌をたくさん聞いてきました。でも、いちばん忘れられないのは、一風変わってはいるけれども真心のこもった、あの「クリスマス」なのです。■

著者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

にい せんきょう し お兄ちゃんは宣教師



ケビン・V, 11才 (メキシコ)

「真理求める人に福音を分かち」
（「宣教師になりたい」『子供の歌集』91）

ぼくの家族は、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、そしてぼくの4人家族です。ぼくたちは家族みんなで、お兄ちゃんが伝道に出られるように長い間準備してきました。お兄ちゃんが伝道に出ることについて話すとき、ぼくはいつも「お兄ちゃんがいなくなっても全然さびしくないよ。一人になってうれしくらいさ」と冗談を言っていました。とうとう、お兄ちゃんの伝道の申請書を出す日が来ました。お兄ちゃんは学校で良い成績を取れるように頑張り、家族みんなが伝道資金をためる

ために一所懸命に頑張りました。ある日、ステーキ会長から電話が来て、お兄ちゃんの召しの手紙が届いたと教えてくれました。お兄ちゃんは、家で夕飯が終わったら手紙を開けることにしました。お兄ちゃんは、メキシコシティー東伝道部に召されました。

それから間もなく、ぼくたちはお兄ちゃんを空港に送り、お別れをしました。家に帰る途中、お母さんは涙を止めることができずでしたが、ぼくは泣きませんでした。でも、それからたった2時間後、それまではお兄ちゃんと二人で使っていた部屋にいたぼくは突然、これから長い間お兄ちゃんに会えないことに気がつきました。今度は、ぼくの方が涙が止まらなくなり、ずっとずっと泣いていました。両親はぼくを抱き

しめて、なぐさめてくれました。そしてぼくたち全員が、大きな喜びと、深い悲しみを同時に味わいました。

その日以来、ぼくは天のお父様へのいのり、伝道しているお兄ちゃんを守ってくださるようお願いしています。

お兄ちゃんは、ぼくも伝道に備えなければいけないと教えてくれました。ぼくは神権を受けるのにふさわしくなると、セミナーに出席して、『神への務めを果たす』にある目標を達成しなければなりません。お兄ちゃんは、働いてお金をためることや、聖文を読むこと、指導者に従うことも教えてくれました。

ほかの人々が福音の祝福を受けてそれが真実だと知ることができるように、ぼくも伝道に出たいです。■

とく べつ な しょう じん
特別な証人



じゅうに しと ていじんかい
十二使徒定員会
ボイド・K・
パッカー かいちょう
会長

じゅうに しと ていじんかい かいじん
十二使徒定員会の会員は、
イエス・キリストの
とくべつ しょうじん
特別な証人です。

かぞく いっしょ じかん
家族と一緒に時間を
す
過ごすことは、なぜそれほど
たいせつ
大切なのでしょうか？



かぞく じかん しんせい じかん
家族の時間は、神聖な時間です。

こうふく けいかく かぞく
幸福の計画は、家族のためにあります。

かぞく げんざい えいえん どだい そしき
家族は、現在と永遠にわたって、土台となる組織です。

わたしたちは家族に献身的な愛を示すよう、教会員に強くすすめています。

きょうかい かぞく おや こども しゅくふく
教会の家族が、親と子供たちが、祝福されるようにいひます。

ボイド・K・パッカー「小さいわらべに導かれ」『リアホナ』2012年5月号, 9

イラスト/エリック・パークレー

わたしは イエス・キリストがふたたび来られる と知っています

みなさんは、イエスさまのうでにだかれてしゆくふくをうけているじぶんがそうぞうできますか。モルモン書のニーファイ人の子どもたちは、イエスさまがふかつされた後、そのようなけいけんをしました。

「さて、イエスは、おさない子どもたちをつれて来るようにめいじられた。

そこで、かれらはおさない子どもたちをつれて来て、イエスのかたわ

らにおろした。イエスは、そのまんなかに立っておられた。……

……イエスは、おさない子どもたちを一人一人だいてしゆくふくし、かれらのためにおんちちにいられた。」(3 ニーファイ 17:11-12, 21)

わたしたちは、イエスさまがふたたび地上に連れて来て、わたしたちとともに生活されることを知っています。しゆは王となり、とうちしゃになられます。しゆに会うそなえができた

人人にとっては、へいあんときこうふくのときとなるでしょう。

ニーファイ人の子どもたちをあいされたように、イエスさまはみなさんのこともあいしておられます。みなさんは、ふたたびおいでになるイエスさまに会うためのそなえができます。人人にしんせつにし、じゅうじゅんになり、いのり、正しいことをえらぶなら、イエスさまがふたたび来られるとき、そなえができていましょう! ■

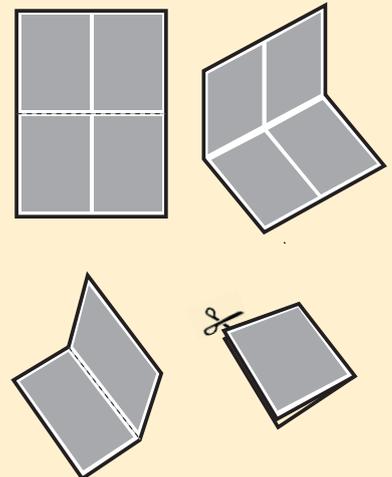
かぞくで話し合うためのアイデア

イエスさまがわたしたちのところにおられるとき、ちきゅうはどのようになっているかについて家族と話し合ってください。ニーファイ だい二書 だい21しゅう 6せつから 9せつを読み、人人がおたがいにどのようにせつするようになるか、どうぶつはどのようにこうどうするか、せかいはどのくらいあんぜんになるかについて話し合うとよいでしょう。イエスさまがふたたび来られるときについて、家族一人一人がどのようなことを楽しみにしているかをじゅんぱんに話してもらいましょう。

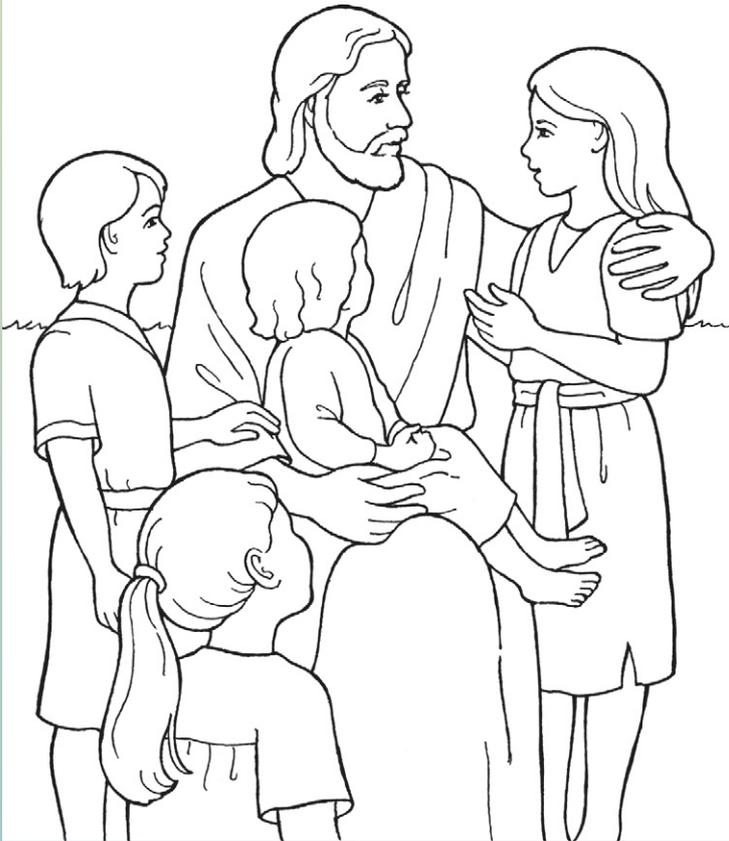


うた 歌とせいこく

- 「主の来られる時」(「子供の歌集」 46-47)
- マタイ 16:27

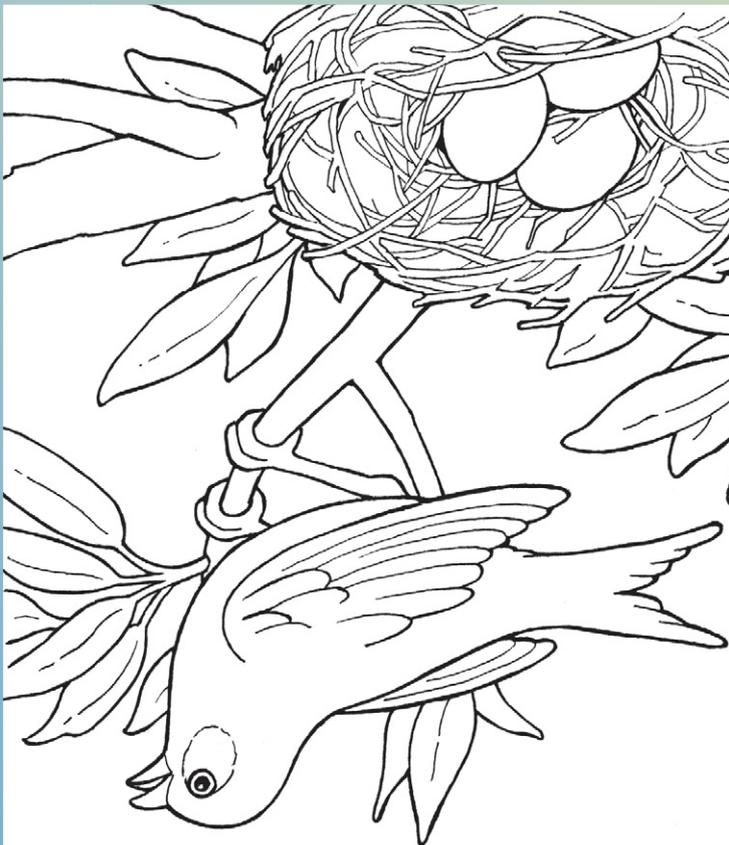
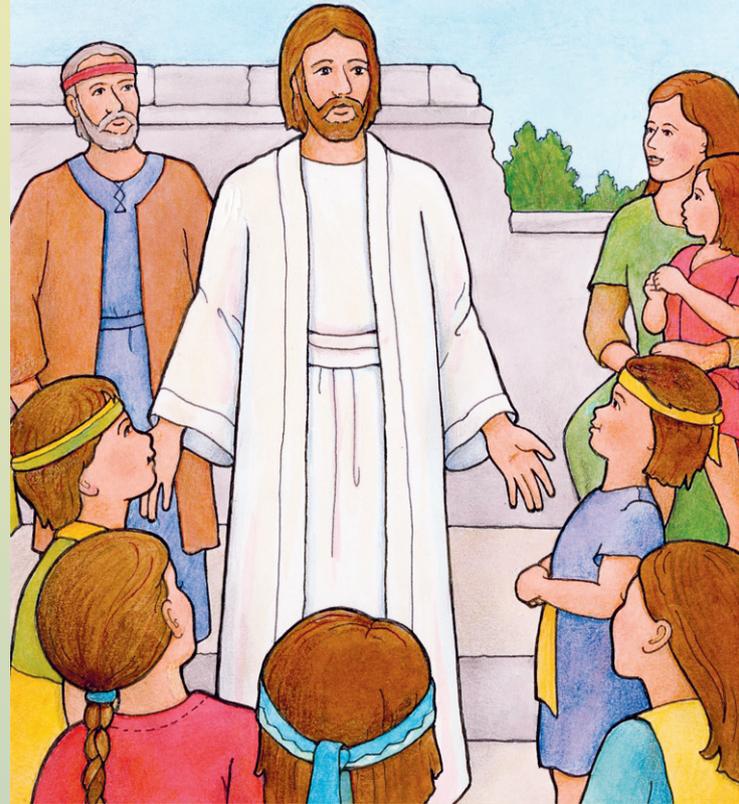


お話し なさるよ むかしのよう



しゅ こ と き
主の来られる時

ミラ・グリーンウッド・セイン



鳥 いつも 歌い

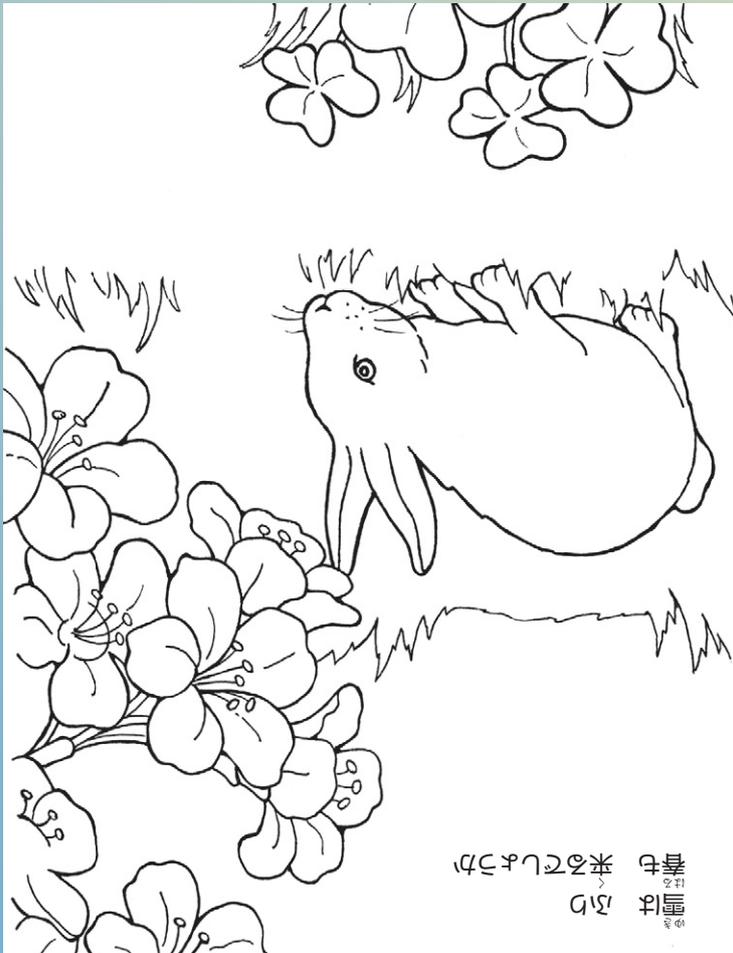


きらめく あの 星 見えるから

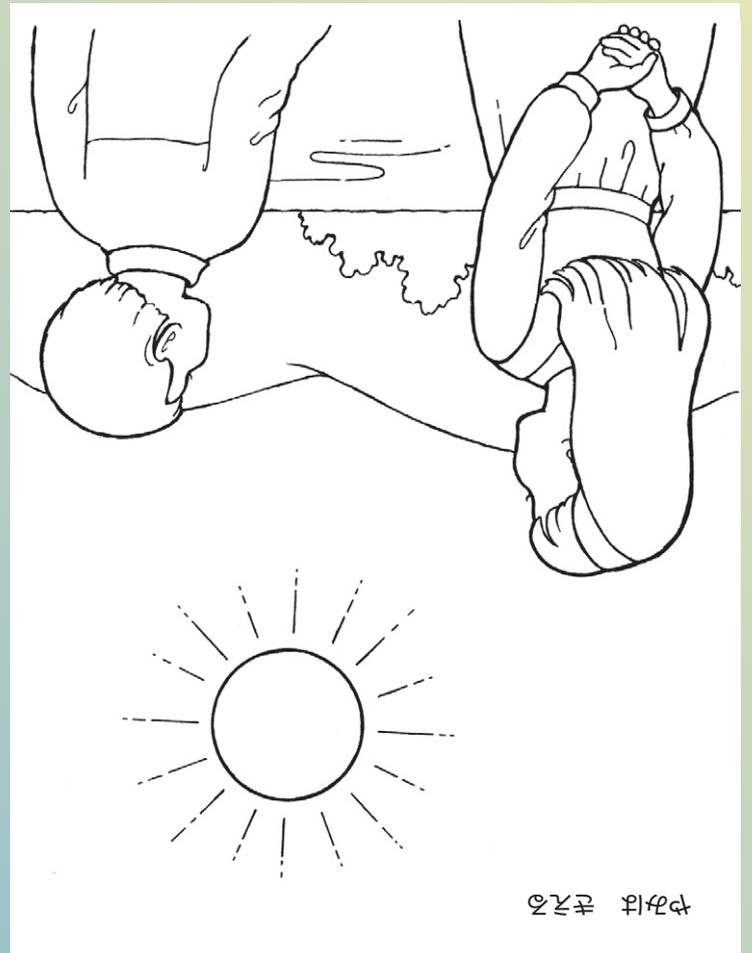
主の 来られる時 てんし 歌い



イエスさま 子ども よびあつめて



雪は どの 香か 来るのか



やみは 見える

わたしたちの ページ

わたしは子供のページで、預言者やイエスキリストの生涯について読むのが大好きです。ほかの人のあかしを読むとき、自分のあかしも強められます。『リアホナ』は、わたしが正しいことを選び、教会の標準を守るように助けてくれます。また、天のお父様を身近に感じさせてくれます。

カミーラ・K, 11才 (西マレーシア)



ある日、初等協会のみんなでブラジル・サンパウロしんでんに 行きました。しんでんの にわは、ぼくが 今まで 見た にわの中で いちばん きれいでした。しんでん で かわす せいやくを 通して、ぼくたちは えいえんに かぞくと いっしょに くらすことが できます。まちあいつで、しんでん 会長が ぼくたちに おはなしを してくれました。そこには きれいな 絵が ありました。とても あたたかくて しあわせな きもちになりました。お母さんは、それは ぼくが 学んでいることは しんじつだと、せいいいが あかして くださっているのだと 教えてくれました。ぼくは しんでんが しゆの みやであるという あかしを えました。

レナート・B, 8才 (ブラジル)



エイリン・C, 8才 (グアテマラ)



レナートとその家族、
レナートのバプテスマ会で

フランス領ギアナにあるカイエヌ支部の子供たちは、初等協会の発表を楽しみました。自分が発表するところを喜んで読めたり、歌もとても上手に歌えました。みんな、初等協会が大好きです。みんなの大好きな歌に「神の子です」があります (『賛美歌』189)。



7才の マウリシオ・Hは メキシコ しゅつしんです。いつか しんでんに 入りたいので、バプテスマを うけて じゅうじゆんに なりたいと 思っています。弟の ダニエルに、よいもはんを しめそうと しています。



3才の ダニエルは ホンコン しゅつしんで、かぞくの中で いちばん 年下です。ダニエルは やさしくて、すてきな えがおをしていて、人人のために よいことを するの

が 大好きです。教会でも いえでも、いつも すずんで おいのりを します。せいさんかいの 前に、お父さんと いっしょに 立って ワードの かいいんに あいさつをするのが すきです。また、教会の 後に『賛美歌』を かたづけて、れいはいどうを きれいに するの も すきです。ある日、教会に行く とちゅうで あった 男の子を さそって いっしょに 教会に 行ったことが あります。それは お母さんにとって、よいもはんに なりました。



ティマ・B, 6才 (ウクライナ)



マシュー・D・フリットン

「人の子は父の栄光のうちに、
み使たちを従えて来る……。」

(マタイ 16:27)

ケ イティーは箱の中をかき回し、包装に使うくしゃくしゃの紙の間を、注意深く探しました。それでも、探し物は見つかりませんでした。

全部を箱の中に戻して、お母さんを探しに行きました。

ケイティーはピアノの後ろヤソファーの下、それにトーマスのベビーベッドの中さえ見てみたのに、ありませんでした。やはりなくなってしまったのです。それをお母さんに伝えなければなりませんでした。

「お母さん、赤ちゃんのイエス様がなくなっちゃったの。」

ケイティーは、イエス様が降誕された場面が飾ってある居間にお母さんを連

れて行きました。ヨセフとマリヤと羊飼いがありました。博士たちもいましたし、ラクダやロバだっていました。全員が、からっぽのかいばおけを囲んでいました。

「ほんとうにないみたいね」とお母さんが言いました。

「そうなの。探しても、探しても、どこにも見つからないの。」イエス様が降誕された場面の飾りも、赤ちゃんのイエス様がないと台なしになってしまいます。

お母さんは本棚の所に行きました。「なくなっていないわ。」お母さんはそう言うと、本棚の上から何かを取りました。

ケイティーはほっとしたため息をつきました。「そこにあったのね！ かいばおけにもどさなくちゃ」と言いました。

ケイティーはイエス様の人形を手にとろうとしましたが、お母さんはそれをまた本棚の上に戻しました。「今年は

クリスマスの朝に、イエス様をかいはおけに置きましょう」とお母さんが言いました。「お父さんはフランスで、そういう伝統を覚えてもらったんですって。」

「どうして？ みんな悲しそうな顔をしているよ。」

「ほんとうにそうかしら。お母さんには、悲しんでいるというより、待っているように見えるわ」とお母さんが言いました。

ケイティーはよく人形を見ました。赤ちゃんのイエス様がねていらっしやるはずのかいばおけが、からっぽなのが見えました。人形の中には、かいばおけに手をのぼしているのもありました。

「そうかもね」とケイティーは言いました。

イエス様を待つ





「トーマスが生まれる前、トーマスが生まれてくるのをどんなに楽しみにしていたか覚えている？」とお母さんが聞きました。

ケイティーは毛布の上で遊んでいる赤ちゃんの弟にほほえみかけました。「うん。とっても長い間待ってるって感じだった。」

「預言者たちも、何千年の間、イエス様を待っていたのを知ってる？ イエス様に来て、わたしたちが天のお父様のもとに帰って一緒に住めるように、助けてくださるのを待っていたの。」

ケイティーは初等協会で、救い主の降誕について書いている預言者の絵を見たのを思い出しました。「覚えていと思うわ」と答えました。

「イザヤのような預言者たちは、イエス様が来られるときのことを考えて、そのことについて書いたのよ。みんな、生きている間ずっと、イエス様がお生まれになるのを待っていたのよ。イエス様が降誕された場面の置物を飾る理由の一つは、たくさんの方が、長い間救い主が来られるのを待っていたことを思い出すためなの」とお母さんが言いました。

「わたしだったら、ずっと待つなんてあきちゃうな。」ケイティーはそう言いながら、イエス様を待っている羊飼いたちを見ました。

「でも、もう一つの理由があるの」とお母さんが言いました。

「それは何？」
「家庭の夕べで、再臨について話したのを覚えている？」

ケイティーはしばらく考えて、こう言いました。「それって、イエス様がもう一度来られる時のこと？」

「そうよ。」お母さんが答えました。
「それはいつ起こるの？」
「分からないわ。でも、イエス様が降

誕された場面の飾りの中の羊飼いや、昔の預言者と同じように、わたしたちも、イエス様が来られるのを待っているの。それが、クリスマスにイエス様が降誕された場面を表す置物を飾って、イエス様を真ん中に置くもう一つの理由よ。自分たちがイエス様を待っていることを思い出せるようにね。」

「イエス様はそのとき、かいばおけにこ来られるの？」とケイティーは聞きました。

「いいえ、今度は赤ちゃんとしてではなく、復活して来られるのよ。でも、降誕された場面の飾りの、からっぽのかいばおけを見るとき、わたしたちもイエス様がもう一度来られるのを待っていることを思い出せるでしょう。あなたがクリスマスの日の朝が待ち切れないように、そしてイエス様が地上に来られるのを人々が待っていたようにね。赤ちゃんのイエス様をなくしてしまったわけじゃないのよ。わたしたち家族がイエス様のことを思い出す一つの方法なの。」

「待たなきゃいけないだけなのね」と、ケイティーはにっこりして言いました。

「そうよ」とお母さん。
「待っている間、シュガークッキーを作ってもいい？」■



「キリストが再び地上に来られることと、そのときには力と尊厳と栄光をもって王の王、主の主として統治されることをわた

したちは宣言します。」

十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホルランド長老
「キリストの大義のために団結する」
『リアホナ』2012年8月号、27-28

きょうがいれきし じゅうよう ばしょ いっしょ み い
教会歴史の重要な場所を一緒に見に行こう!

9 才のエリスと6才のカイル・Hは、ユタ州ソルトレーク・シティーにある、本物に似せて作られた開拓者村で、雪道を歩いています。まるで1800年代半ばに戻ったようです。そのような時期に、開拓者はソルトレーク盆地に移り住んでいました。エリスとカイルと一緒に、デイス・イズ・ザ・プレース(訳注——「まさにこの地だ」の意味)記念公園を探検して、開拓者の子供たちがどんな生活を送っていたのか見てみましょう。

まさに
この地だ!

アニー・ビアー



まちとこや
町の床屋さんは、
切ったかみの毛やそったひげを、
人形のかみの毛に使うために
おもちゃ屋さん
あげていました。





12人の家族が
この小さな開拓者の家に
住んでいました。
子供たちは
ベッドのある屋根裏に行くために、
外に出てから
はしごを上らなければ
なりませんでした。



開拓者の子供たちは、家のお手伝いをした後に、おもちゃで遊びました。
カイルが気に入ったのは、2本のひもを引っ張ってクマを上らせるおもちゃ
でした。開拓者の子供たちは、そのおもちゃで遊びながら、牛の乳のしぼり
方を学びました。

開拓者の子供たちは、
たいいてい一部屋しかない学校に行きました。
全部の学年が同じ部屋で、ちがうことを勉強していました。



1847年に、
最初の開拓者が
西部への旅を終えました。
ブリガム・ヤングが
初めてソルトレーク盆地を
見たとき、
「まさにこの地だ」と
言いました。
この記念碑は
ブリガム・ヤングの孫が
デザインしたもので、
勇敢な開拓者を
ほめたたえています。

おいしい！
開拓者の
子供たちも
おかしが
大好きでした！



イエスさまが お生まれにな^うった

シャーロット・メイ・シェパード



マリヤと ヨセフは ベツレヘムに
むかいました。長い^{なが} たびでした。
マリヤには、もうすぐ^{あか} 赤ちゃんが
生まれそうでした。

どの やどやも いっぱい
でした。マリヤと ヨセフは、
どうぶつが ねる うまやに
とまりました。そこに いる
^{あいだ}間に、イエスさまが お生まれ
に になりました。

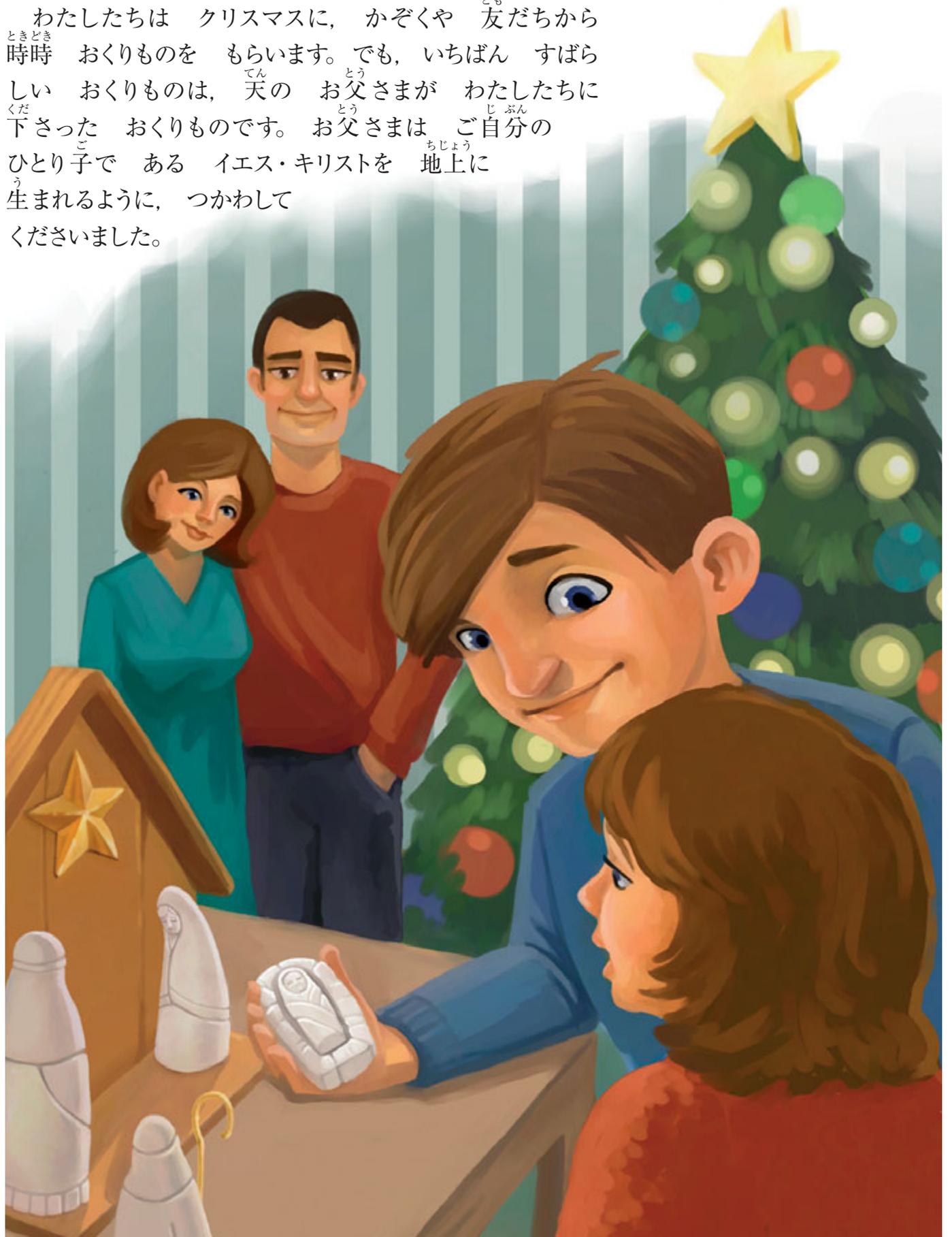


その近くの のはらでは、ひつじかいが ひつじの
 ばん番を していました。てんしが おとずれて、新しく
 生まれた おさな子に 会いに、ベツレヘムに 行き
 なさいと 言いました。

ひつじかいは、マリヤと ヨセフが とまって
 いた うまやを 見つけました。その 中の
 かいばおけに おさな子 イエスさまが、ぬの
 に くるまれて ねむっていました。これ
 から よの すくいぬしに なる おかた
 です。



わたしたちは クリスマスに、かぞくや ^{とも}友だちから
^{ときどき}時々 おくりものを もらいます。でも、いちばん すばら
しい おくりものは、^{てん}天の ^{とう}お父さまが わたしたちに
^{くだ}下さった おくりものです。お父さまは ^{じぶん}ご自分の
ひとり子で ある イエス・キリストを ^{ちじょう}地上に
生まれるように、つかわして
くださいました。



この きせつを おいわいする りゆう

バル・チャドウィック・ベグリー

うえ 上に ならんだ 13この ものが、え なか 絵の 中に かくれています。み 見つめて、まる 丸を つけましょう。



帰宅の途中で

ヘザー・ウィットル・リグリー

いつものように職場から家に帰るために、バスに乗っていました。窓にもたれかかっていると、繰り返されるバスの停止と出発がゆりかごのようになって、5分もしないうちに眠りに引き込まれるのです。フルタイムで働き、正規の学生としてクラスを取り、なおかつ結婚して間もないわたしに押し寄せてくる、様々な責任に向かい合う毎日でした。職場を往復する間、ずっと眠り続けることが何度もありました。

まどろんでいるときに、道順を教える大きな声が耳に入ってきました。間もなく、道順に不慣れなその運転手は、80キロの全行程の道を曲がる度、また停留所ごとに道案内を必要としていることが分かりました。

いつものように1時間半では家に帰れないことを知ったわたしは、急にいらだってきました。不慣れな運転手を許せない気持ちが込み上げてきました。道順を叫ぶ声が、眠りかけるわたしのじゃまをするのです。

けれども、しばらくして叫び声がやんだことに気づきました。見上げると、わたしの2列前の席に座っている一人の女性が、運転手に優しく道を教えていました。優しく、そして親切に道順を教えたその女性は自分が降りる前に、幾つか先の



どちらへ
曲がったらよいのかが
分からないときに、
イエス・キリストは
道を示して
くださいます。

停留所までの行き方をも教えていました。帰宅してからずっと後になって、優しく案内したその女性と比べると、自分が批判的だったことが心の痛みとして残りました。

わたしは、自分がバスの運転手のような存在であることに気づきました。運転手が新しい道順に不慣れであったのと同じように、わたしは人生をどのように歩んだらよいのかわりません。彼もわたしも、不慣れな道を進んでいるのです。彼は、先がどうなっているかを根気よく教えてくれた人に途中で出会えたことを感謝したことでしょう。

キリストはわたしたちに同じことをしてください。どちらへ曲がったらよいのかが分からないときに、主の模範から進むべき方向を見いだすことができます。疑問があれば、主は優しく答えを与えてくださいます。主は長旅の後の疲れた体で、幾度人々の必要を満たそうとしてくださったことでしょうか。

その日以降も、新しいバスの運転手に出会うことが幾度かありました。時には道案内を必要とすることがありました。わたしは親切な女性と救い主が示してくださった模範に感謝しています。喜んで彼らの案内を買って出しています。■

著者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



イラスト／ロバート・T・バレット

ジョセフ・ フィールディング・スミス

ジョセフ・フィールディング・スミスは少年のころ、いっしょけんめいはたらくことを学びました。お母さんは、女の人が赤ちゃんをうむときのたすけをしていたので、ジョセフはお母さんがかんじゃさんの家に行くとき、馬車をうんでんしました。大きくなると、ジョセフはせいぶんがだいすきになりました。教会の教えについての本をたくさん書きました。教会のたいかんちょうとして、ユタしゅうプロボしんでんのほうけんのいのりを書きました。



ツレヘム近くの野で羊飼いたちが生まれ
たばかりの子羊の世話をしていました。
そこに天使が現れ、主の降誕を知らせた
のです。七十人のブルース・D・ポーター長老はこれ
について、次のように書いています。「羊の出産の
時期にお生まれになったこの男子は、『神の小羊』
として知られています。この呼び名には深い意味が
あります。それは、主が子羊と同じ時期に生まれ、
いつか『ほり場にひかれて行く小羊のように』
なられる日が来るからです。……最も大いなる御方
が御自身を最も低い者とされ、天の羊飼いが小羊
になられたからです。」「急ぎ行きて拝まずや」
(16 ページ) をご覧ください。

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

JAPANESE



10792 300